
調査年報 23

平成 22 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

調査年報 23

平成 22 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



縄文時代前期の墓



塊状耳飾



盛土遺構遺物出土状況



擦文文化期の竪穴住居跡



福山城下町遺跡 桶と漆塗り下駄



森川6遺跡 調査状況



調査状況（奥はトーサムポロ湖）



アイヌ文化期の貝塚

目 次

口絵

目次

北海道史略年表

平成22年度の調査

1	調査の概要	1
2	調査遺跡	4
	苫小牧市美沢16遺跡	4
	北斗市茂辺地4遺跡	6
	北斗市館野遺跡・館野2遺跡・館野6遺跡（整理）	7
	北斗市押上1遺跡	8
	木古内町大平遺跡	10
	木古内町大平4遺跡	16
	木古内町蛇内2遺跡	20
	木古内町木古内遺跡	24
	木古内町木古内2遺跡	30
	福島町館崎遺跡	32
	森町森川6遺跡	38
	松前町福山城下町遺跡	40
	富良野市中五区2遺跡	44
	富良野市中五区3遺跡	47
	下川町北町J遺跡	50
	遠軽町白滝遺跡群（整理）	52
	根室市トーサムポロ湖周辺竪穴群	56
	鶴居村下幌呂1遺跡（整理）	64
3	現地研修会の記録	68
4	協力活動及び研修	70
5	平成22年度刊行予定報告書	74
6	組織・機構	75
7	職員	76

北海道史略年表

本州の時代区分	年代（西暦）	北海道の時期区分		平成22年度調査遺跡の主な時期
明治～平成		(近代、現代)		
江戸時代	A. D. 1900	近世 中世	アイヌ文化期	福山城下町 トーサムボロ湖周辺堅穴群 福山城下町、森川 6
室町時代				
鎌倉時代	A. D. 1200			
平安時代		擦文文化期	大平 大平、木古内、トーサムボロ湖周辺堅穴群	
奈良時代	A. D. 800		オホーツク文化期	
古墳時代	A. D. 400		続縄文時代	
弥生時代	B. C. 300			
縄 文 時 代	晩期	縄 文 時 代	晩期	大平、大平 4、蛇内 2、中五区 2、中五区 3
	後期		後期	館崎、木古内、蛇内 2、押上 1
	中期		中期	館崎、北町 J、茂辺地 4
	前期		前期	館崎、大平、蛇内 2、木古内、木古内 2 トーサムボロ湖周辺堅穴群、美沢16
	早期		早期	大平 4、蛇内 2、木古内、館崎 トーサムボロ湖周辺堅穴群
	草創期		草創期	
旧石器時代	B. C. 12000		旧石器時代	
	B. C. 20000			
	B. C. 30000			

平成22年度の調査

1 調査の概要

今年度は道内9市町に所在する15遺跡で発掘調査を実施した。このうち7遺跡は先年からの継続調査である。あらたに整理作業を行ったのは4遺跡であり、継続で整理作業を行ったのは5遺跡である。発掘調査を工事原因別に見ると、国土交通省北海道開発局の各開発建設部が実施する工事に伴う調査が5遺跡で、道路工事・ダム・空港設備建設に伴うものである。北海道（総合振興局、建設管理部）（旧土木現業所）が行う道路工事に伴うものは3遺跡である。北海道新幹線建設に伴うものは7遺跡である。

以下、調査の成果を時代、時期順に略述する。縄文時代の遺跡では複数の時期の遺物が出土することが多いが、ここでは顕著なものを重点的に述べる。なお、遺構などの（ ）数字は員数である。

旧石器時代 顕著な資料はない。

縄文時代 早期 トーサムポロ湖周辺堅穴群の堅穴住居跡(2)は、浦幌式土器、東釧路Ⅱ式土器などの石刃鎌石器群の時期である。大平4遺跡では堅穴住居跡(2)が検出され、東釧路Ⅳ式土器が出土している。蛇内2遺跡では、東釧路Ⅳ式土器が出土している。木古内遺跡の堅穴住居跡(7)は、東釧路Ⅱ式から東釧路Ⅳ式土器の時期である。館崎遺跡の土坑(2)のひとつからは、東釧路Ⅳ式土器が出土している。この遺跡では中茶路式土器も出土している。

前期 美沢16遺跡では堅穴住居跡(2)、土坑(5)が検出された。堅穴住居跡は台地の縁から斜面に立地し、前年度の調査で一部検出していたものである。土器は静内中野式土器、春日町式土器などが出土している。

トーサムポロ湖周辺堅穴群では、前年度の発掘で検出した押型文尖底土器の時期の堅穴住居跡、土坑などの周囲を調査した。

大平遺跡では堅穴住居跡(12)、土坑(26)、焼土(57)、集石(1)、剥片集中(76)などの遺構が検出されている。これらの遺構は、円筒土器下層c式、円筒土器下層d式、円筒土器上層a式の時期のものである。今回の調査区域の8割にわたって認められた盛土遺構は、厚さ60cmを上回るところがあり、膨大な数量の遺物が出土している。個体識別を行って取り上げた土器は600個体を超している。土製円盤、耳栓、玦状耳飾なども出土している。大平4遺跡では、前期後半の時期の土坑(1)、剥片集中(2)が検出されている。木古内遺跡の堅穴住居跡(8)は円筒土器下層式の時期である。木古内2遺跡の堅穴住居跡(6)は、大型のもの(3)、小型のもの(3)であり、円筒土器下層式の時期である。蛇内2遺跡では堅穴住居跡(1)、土坑(2)が検出されている。土坑のひとつはフラスコ状土坑である。土器は円筒土器下層b式、円筒土器下層d式などが出土している。

館崎遺跡では、前年に引き続き、前期後半～中期前半および後期前葉の時期に形成された盛土遺構を調査した。前期後半～中期前半の時期の遺構には、堅穴住居跡(30)、土坑(73)、土坑墓(2)、道路跡、焼土、集石、杭穴列などがある。これら多種多様の遺構は重複したものが多くあり、詳細な時期は、整理作業を経て確定される。人骨は2か年の発掘で14体分が確認されており、土坑墓、フラスコ状土坑、堅穴住居跡などで検出している。盛土遺構から検出される土器は個体の形状を保って出土したものが多数あり、これらの土器型式は、円筒土器下層d式、円筒土器上層a式、円筒土器上層b式、サイベ沢Ⅶ式土器、見晴町式土器などである。円筒土器の時期に特徴的な半円状扁平打製石器、北海道式石冠が多く出土している。石鏃は頁岩製のものが多く、その基部にはアスファルト付着が顕著である。滑石製の玦状耳飾が30点程出土し、断片的なものであるが土偶も出土している。骨角器は焼けた状態のものが残存しており、鋸頭、結合式釣針、骨針、鯨骨加工品などがある。動物遺体は、クジラ類・イルカ類、鯨

脚類、エゾシカなどの陸獣類、魚類、貝類がある。植物遺体は、クルミ、クリなどがある。

中期 北町J遺跡では剥片集中(7)が検出された。珪化岩の礫、石核、剥片、碎片が出土しており、ここが石器製作の場であったことが推定される。しかし出土した土器が少量で、表面が磨耗していたことから時期を確定することは困難であった。前年度の出土土器を参考にして中期のものと推測しておく。

後期 押上1遺跡では、竪穴住居跡(9)、土坑(7)、Tピット(1)などの遺構が検出されている。竪穴住居跡は、いずれも掘り込みが浅く、平面形は捉えがたい。住居の中央部分に方形に組んだ石組炉が確認できたものもある。ここでは、高さ20cmを上回る大きさが推定できる赤彩壺形土器も出土している。

蛇内2遺跡では竪穴住居跡(6)、土坑(4)が検出され、前葉のものと推定している。竪穴住居跡のひとつからは石組炉が確認された。土坑のひとつは、フラスコ状土坑である。土器は、大津式土器などが出土している。木古内遺跡の竪穴住居跡(6)は前葉の時期である。住居跡は平面形が円形・多角形で、石組炉がみられる。館崎遺跡の盛土遺構は、後期前葉にも形成されており、鐸形土製品も出土している。

晩期 大平4遺跡の土坑(1)からは、大洞C₂式の壺形土器が横倒しの状態で出土している。大平遺跡では竪穴住居跡(1)が検出されている。この遺構の周辺からは、大洞A式土器に並行する時期の土器が出土している。

中五区2遺跡の焼土(8)、集石(2)は、タンネトウL式土器の時期のものである。中五区3遺跡には土坑(15)、焼土(5)、配石(2)などがある。トーサムポロ湖周辺竪穴群では緑ヶ岡式土器が出土している。

続縄文時代 顕著な資料はない。

擦文文化期 大平遺跡では竪穴住居跡(4)が検出されており、北壁にカマドがあり、トンネル式の煙道がある。これらは8世紀後半、9世紀後半～10世紀初頭の二つの時期と考えられる。住居内からは、坏、甕などが出土している。木古内遺跡の竪穴住居跡(2)は、北西壁にカマドとトンネル式の煙道がある。坏、甕、棒状礫、紡錘車などが出土しており、8世紀後半～9世紀の時期が推定される。トーサムポロ湖周辺竪穴群では、オホーツク式土器が出土している。

アイヌ文化期 森川6遺跡では、駒ヶ岳d降下火山灰(1640年降下)の直下から、列を成して広がる畝の痕跡を検出しており、これは畑跡と推定している。トーサムポロ湖周辺竪穴群では、貝塚(15)、建物

平成22年度の発掘調査など

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)	備考
札幌開発建設部	一般国道337号新千歳空港関連工事	キウス5ほか	千歳市	整理事業	平成15、16、18～21年
	新千歳空港ILS用地造成工事	美沢16	苫小牧市	473	平成21年から継続
函館開発建設部	高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事	茂辺地4	北斗市	99	新規
		館野ほか		整理事業	平成16年～21年調査
旭川開発建設部	天塩川サンルダム建設事業	北町J	下川町	3,000	平成21年から継続
	旭川十勝道路富良野市富良野道路建設工事	中五区2	富良野市	2,650	新規
	中五区3	3,907		新規	
網走開発建設部	旭川紋別自動車道	ホロカ沢Iほか	遠軽町	整理事業	平成15～20年調査
	北海道横断自動車道網走線	北上4	北見市	整理事業	平成21年調査
渡島総合振興局 (函館建設管理部)	町道朝日豊岡代行事業用地内	福山城下町	松前町	277	新規
	森インター線交付金工事	森川6	森町	1,800	新規
釧路総合振興局 (釧路建設管理部)	釧路弟子屈線(新交-61)交付金工事	下幌呂1	鶴居村	整理事業	平成19、21年調査
	根室半島線(B交-408)交付金工事	トーサムポロ湖周辺竪穴群	根室市	1,500	平成21年から継続
釧路町	町道床丹5号線道路改良事業	天寧1	釧路町	整理事業	平成20年調査
鉄道建設本部北海道 新幹線建設局	北海道新幹線建設工事	館崎	福島町	894	平成21年から継続
		木古内	木古内町	7,716	新規
		木古内2		950	新規
		大平		2,145	平成21年から継続
		大平4		2,011	平成21年から継続
		蛇内2		850	平成21年から継続
押上1	北斗市	2,532	新規		
合 計				30,804	

跡(3)、柱穴・杭穴(291)、灰集中(9)などが近接して検出されている。これらの遺構は、樽前 a 降下火山灰(1739年降下)よりも上位にあった。石器等はめのう製の火打石、軽石製品、棒状礫など、金属製品は斧、タガネ状工具、マレク、釣針、火打金、釘などの鉄製品、銅板加工品がある。骨角器は銚頭・矢中柄・針入れなどがある。貝殻はアサリ、オオノガイ、ボラ(ツブ)、ウバガイ(ホッキ)、ホタテガイ、タマキビ類などである。獣骨はシカなどの陸獣、クジラ、トド、アシカなどの海獣である。魚骨はカレイ、タラ、カジカ類などで、ほかに鳥骨、ウニ殻などがある。

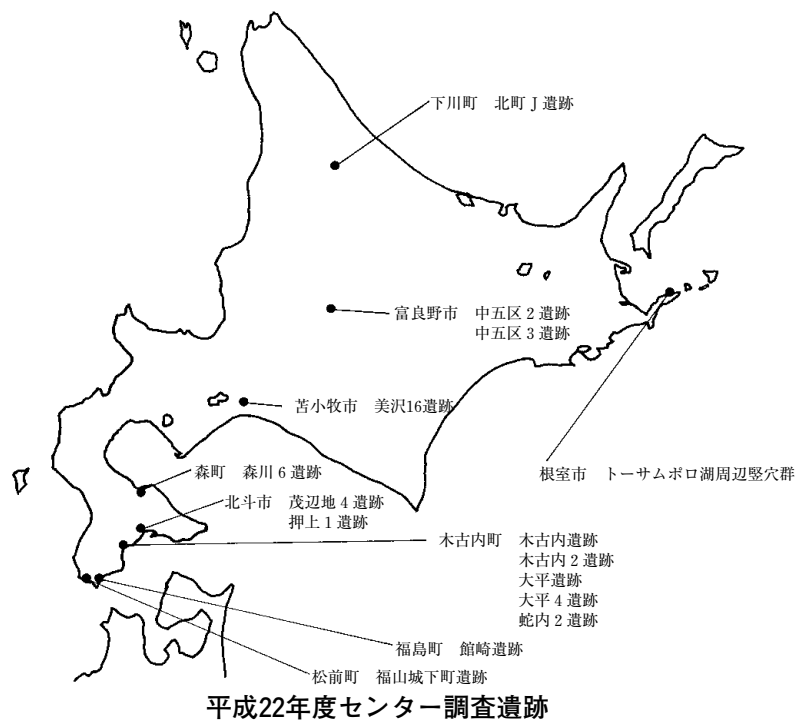
近世 福山城下町遺跡は、近世松前藩の町家部分の調査である。蔵(2)、桶杵井戸(5)、木杵井戸(1)、礎石建物(1)、掘立柱建物(1)、排水溝(5)、礫集中(8)、土坑(5)、焼土(7)などの遺構が検出されている。陶磁器は、肥前系、瀬戸美濃系、中国産がある。鏡、簪、煙管、銭(中国銭、寛永通宝、箱館通宝)、鉄鍋、卸金、釘、鋸、鑿、鑿、鉋刃、鉄鎚、鑿、釣針、マレク、ニンカリなどの金属製品、櫛、下駄、桶樽、漆椀、建材、船材などの木製品類、火打石、砥石、硯などの石製品、簪、矢中柄などの骨角製品が出土している。

継続整理・報告書作成

発掘調査によって出土した膨大な資料群について継続的に整理作業を行い、順次報告書を刊行している。

白滝遺跡群では、平成18年以降の調査資料の接合、図化、データ処理、図版作成などの作業を行っている。このうち旧白滝15遺跡の大型石刃の剥離技術が、接合作業の積み重ねによって判明してきたので、概略を説明できるようになった。長さ55cm、幅14cm、厚さ16cmの石刃核ブランク(黒曜石)から長さ35cmの石刃を連続的に剥離していくものである(52~55ページ)。これはホロカ型彫器を含む石器群のひとつという位置づけである。

館野遺跡は平成16年度に調査したものの土器復元、遺物実測、遺構図の作成などの作業に引き続き、写真撮影等の作業を行った。館野2遺跡は、平成19年度に発掘したA地区・B地区、19年度、20年度に発掘したC地区について整理作業を継続して行っている。



2 調査遺跡

とまこまいし みさわ いせき 苫小牧市 美沢16遺跡 (J-02-234)

事業名：新千歳空港 I L S 用地造成工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：苫小牧市美沢185-36

調査面積：473㎡

調査期間：平成22年5月6日～6月23日

調査員：三浦正人、越田雅司、末光正卓、広田良成

調査の概要

遺跡は苫小牧市北部の美沢地区、市街地から北東約15km、新千歳空港B滑走路端部の南側に位置する。美沢地区の北側は東流する美沢川を挟んで千歳市美々地区である。美沢川を中心とする一帯は新千歳空港建設用地にあたり、1976(昭和51)年から四半世紀に渡り300,000㎡近くの面積が発掘調査されてきた。これらの遺跡群は流域河川名等から、美沢川遺跡群、フレベツ遺跡群、ペンケナイ川遺跡群と呼称されている。

本遺跡はフレベツ遺跡群に属し、フレベツ湿原に北面する標高約22mの台地と斜面部に広がる。1995(平成7)年度、B滑走路制限表面切土工事に伴い950㎡が調査され、「フレベツ遺跡群Ⅲ 苫小牧市 美沢16遺跡」(北埋調報101)を刊行している。平成21年度はその西側に接する台地の縁から斜面部分1,360㎡を調査し、西側の調査区境界で竪穴住居跡(ⅡH-2・3)及び土坑(LP-10)が斜面部へと続くことが判明し、北海道教育委員会により範囲確認調査が行われ調査範囲が確定された。平成22年度はこの部分、西側斜面473㎡を調査した。

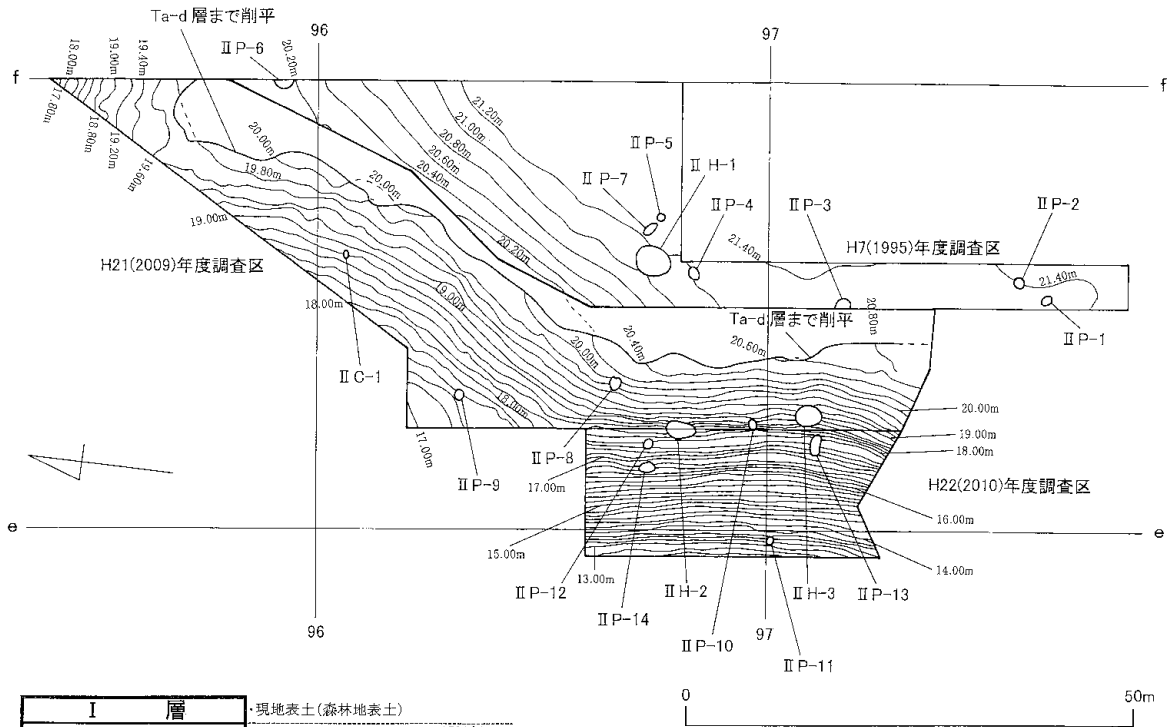
基本層序は上位から現地表土、樽前a降下軽石層(Ta-a 1739年)、樽前b降下軽石層(Ta-b 1667年)、第Ⅰ黒色土層、樽前c降下軽石・スコリア層(Ta-c 約2000年前降下)、第Ⅱ黒色土層、樽前d降下軽石・スコリア層(Ta-d 約8000年前降下)である。平成21・22年度の調査は第Ⅱ黒色土層が対象である。斜面部分の第Ⅱ黒色土層は上位にTa-d層を含む二次的堆積層である。また、f-96-62・72区付近は下位の恵庭a降下軽石層まで掘り下げ、「土層剥ぎ取り転写作業」を行った。

遺構と遺物

遺構は竪穴住居跡2軒(ⅡH-2・3)、土坑5基(ⅡP-10~14)を調査した。平成21年度の調査と合わせて、竪穴住居跡2軒(ⅡH-2・3)、土坑7基(ⅡP-8~14)、炭化物集中1か所(ⅡC-1)である。ⅡH-2・3は斜面に設けられた小型の住居跡で、炉跡や柱穴は確認できなかった。土坑は、^{ふくど}覆土が黒色土層のみで壁が不明瞭で浅いもの(ⅡP-9・11)と、黒色土とTa-d層が混在する覆土で壁・坑底が明瞭なもの(ⅡP-8・10・12・13・14)に分けられる。

遺物は土器29点、石器類が84点出土し、平成21年度との合計は土器181点、石器等220点である(ともに遺構出土分を含む)。

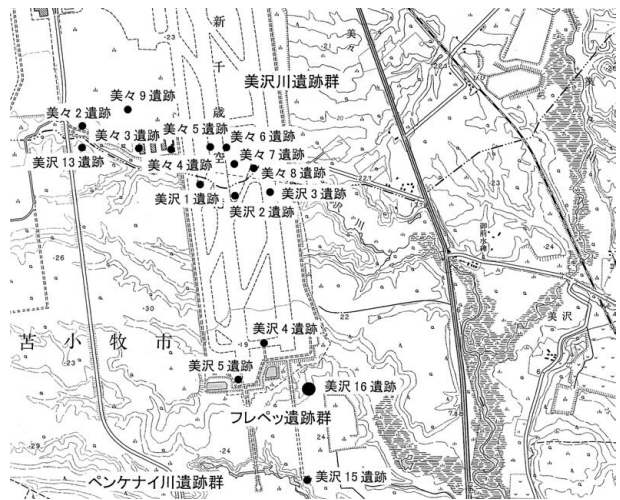
土器は厚手で、繊維を多量に含み幅の広い条が特徴の静内中野式が多いが、薄手で回転施文による曲線の細い条が規則的みられる(ループ文)特徴の春日町式もみられる。石器は、石鎌・つまみ付きナイフ・スクレイパー・U・Rフレイク・石核・磨製石斧・たたき石・砥石・石錘があり、磨製石斧はほとんどが破片である。また、定形的な石器に分類しがたい加工・使用痕のある礫も出土している。遺構・遺物ともに縄文時代前期前半の時期のものである。



第Ⅱ黒色土層上面地形測量図及び遺構位置図

I 層		・現地表土(森林地表土)	
樽前a	上位	・軽石主体	1739年
降下	中位	・火山砂～火山灰主体	
軽石層	下位	・軽石主体	
樽前b降下軽石層		・軽石主体	Ta-a 1667年 Ta-b
第Ⅰ	I	・黒色土	
黒色土層	I 1		IB
樽前c	a	・軽石主体	
降下軽石	b	・軽石主体	約2,000年
・スコリア層	c	・火山砂～火山灰主体	
	d	・軽石・スコリア	Ta-c
第Ⅱ	Ⅱ	・黒色土(遺物包含層)	
黒色土層	Ⅱ 1	Ⅱ 6・Ⅱ 1 6は斜面二次堆積層	Ⅱ B
樽前d	Ta-dY	・軽石・スコリア	
降下軽石	上位層	・軽石・スコリア	
・スコリア層	下位層	・軽石・スコリア・岩片	Ta-d
第Ⅲ	Ⅲ	・黒色土	
黒色土層	Ⅲ 1		Ⅲ B
黄褐色ローム質土層		・En-aローム	
恵庭a降下軽石層		・軽石	約12,000 ～17,000年前 En-a

基本層序模式図



遺跡位置図 (国土地理院2万5千分の1地形図「千歳」を使用)



調査状況 (南から)



調査状況 (北西から)

北斗市 茂辺地 4 遺跡 (B-06-72)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：北斗市茂辺地822-1

調査面積：99㎡

調査期間：平成22年5月12日～6月4日

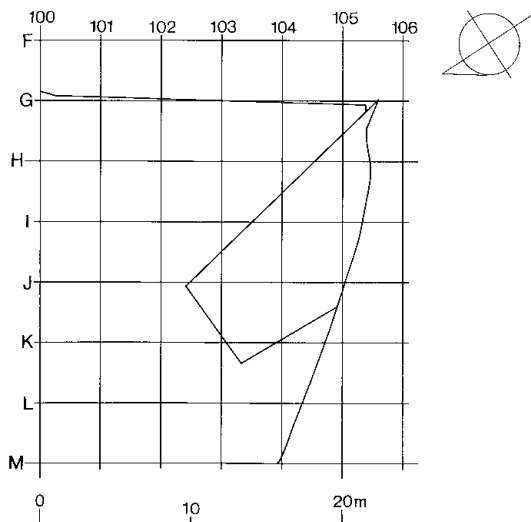
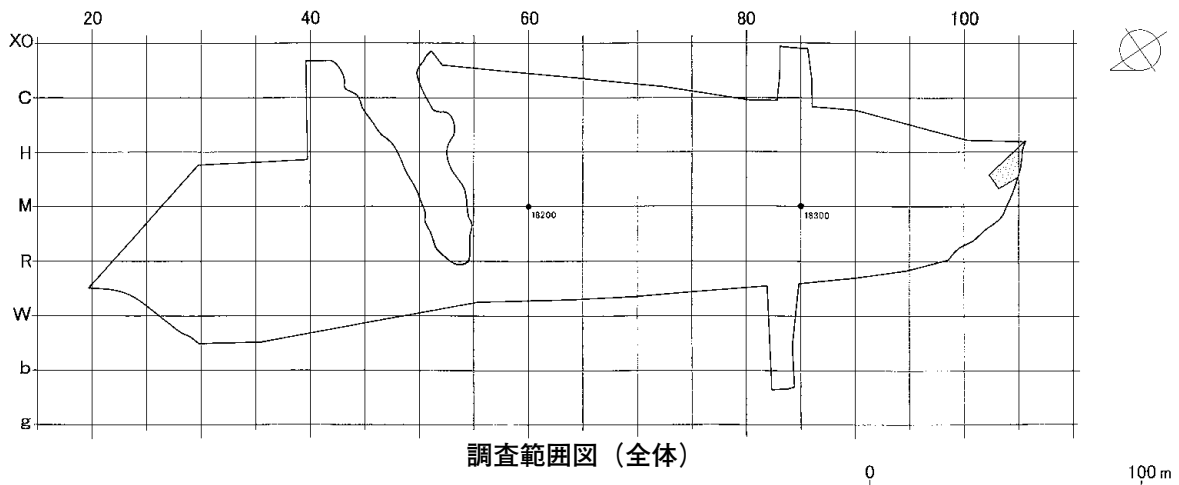
調査員：佐川俊一、袖岡淳子、佐藤 剛

調査の概要

遺跡は北斗市の市街地より南西にあるJR茂辺地駅から西側約1.2kmに位置し、函館湾に注ぐ茂辺地川右岸の標高67～75mの海岸段丘上に立地する。工事用地内の茂辺地4遺跡の調査面積は全体で約21,000㎡である。今回は委託者からの要請により、工事工程上先に調査が必要な範囲のみを対象とした。基本層序はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒褐色土(駒ヶ岳d降下火山灰、白頭山-苫小牧降下火山灰を含む)、Ⅲ層：黒褐色土(遺物包含層)、Ⅳ層：Ⅲ層からⅤ層への漸移層、Ⅴ層：黄褐色ローム質土である。

遺構と遺物

遺構は検出しなかった。遺物は縄文時代中期前半から後期前葉の土器・石器が839点出土した。



調査範囲図 (平成22年度)

調査状況

北斗市 館野遺跡ほか

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

整理期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日

調査員：佐川俊一、皆川洋一、袖岡淳子、佐藤 剛、富永勝也、立田 理、村田 大、大泰司 統

整理の概要

今年度、函館江差自動車道の事業は現地（北斗市）において茂^も辺^へ地 4 遺跡の発掘調査および昨年調査した館野 6 遺跡の遺物水洗作業を実施した。また江別センターでは 3 遺跡 6 地区の一次整理および二次整理を行っている。以下、遺跡ごとに整理作業の内容について記述する。

館野遺跡（B-06-15）

館野遺跡の現地調査は平成15年および翌16年の2回実施した。このうち現在、整理作業を行っているのは平成16年調査分についてである。今年度は遺物の追加実測とトレース、遺物の写真撮影、図版・レイアウト作成などの作業を実施している。報告書刊行は平成23年度の予定である。

館野 2 遺跡（B-06-35）

A～C地区の3か所に分けて調査した。A・B地区は平成19年に調査を終了したが、C地区は遺構・遺物が当初の予想より多かったため平成20年にも調査を実施した。

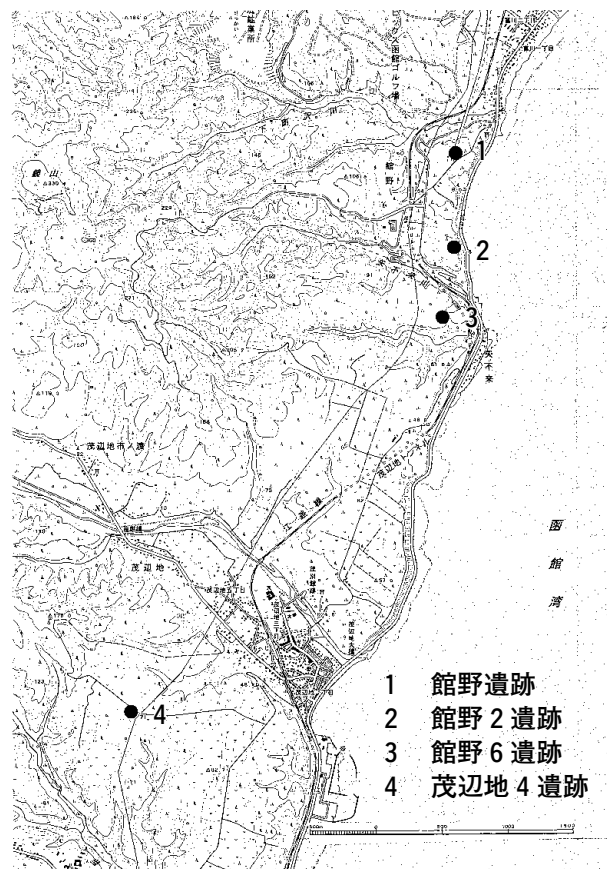
館野 2 遺跡はA～C地区ともに今年度から二次整理を開始した。A・B地区はC地区に比べ遺物点数が少ないことから今年度で二次整理を終え、23年度に報告書を刊行する。C地区は遺構・遺物ともに多いことから二次整理を24年度まで行い、25年度に報告書刊行を予定している。今年度行ったC地区の二次整理は、主に遺構と包含層間の土器の接合作業を実施している。

館野 6 遺跡（B-06-79）

館野 6 遺跡は平成20年に東側の本線部分、翌21年に西側の補償道路部分の調査を行った。

本線部分からは主に縄文時代前期、中期の遺構と約155,000点の遺物が出土した。今年度の整理作業は二次整理に着手した。次年度も整理作業を継続し、24年度に報告書刊行を予定している。

補償道路部分からは縄文時代前期後半の盛土遺構、竪穴住居跡を検出し、約100万点以上の遺物が出土した。整理作業は今年度5月～11月初旬まで現地で遺物水洗作業を行い、11月からは江別センターで一次整理のうち遺物の分類及び土器片の注記作業を開始した。



遺跡位置図（国土地理院2万5千分の1「茂辺地」を使用）

ほくとし おしあげ いせき
北斗市 押上1遺跡 (B-06-73)

事業名：北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

所在地：北斗市押上278-7ほか

調査面積：2,532㎡

調査期間：平成22年9月6日～12月1日

調査員：遠藤香澄、中山昭大、福井淳一、柳瀬由佳、吉田裕吏洋

調査の概要

押上1遺跡は、海岸から約2km内陸の低位段丘ないし扇状地扇端に立地する(標高約15～20m)。

過去には、函館江差自動車道建設にともなう発掘調査が上磯町(現、北斗市)教育委員会により実施されている。今回の調査範囲は、上磯町教育委員会が調査した範囲の北西約200mに位置する。今回の調査範囲を、便宜的にA～G地区に分け、今年度はC～D地区について調査を終了した。

基本土層は、Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：黒色土層(部分的に上部に白頭山一苦小牧降下火山灰(B-Tm)が混じる)、Ⅲ層：漸移層、Ⅳ層：ローム層、Ⅴ層：砂礫層。主な遺物包含層はⅡ層である。

遺構と遺物

遺構は、竪穴住居跡9軒、フラスコ状のものを含む土坑7基、Tピット1基、小ピット54基を検出した。竪穴住居跡は、3軒(OH-7a・7b・8)がE地区追加範囲、6軒(OH-1～6)がG地区から検出された。いずれも掘り込みが浅く平面形は捉えがたい。OH-1・2では、床面中央部付近に礫で炉を方形に組んだ石組炉が確認された。土坑は、D・E地区から各1基、G地区から5基検出された。フラスコ状のもの(OP-7)や墓の可能性のあるもの(OP-1・6)がある。小ピットはG地区の住居跡周辺部から集中して検出している。このほかトレンチ調査にとどめたA・B地区では、盛土遺構が確認された。A・B地区では、竪穴住居跡、土坑等多数遺存していることを確認しており、来年度調査する予定である。これら遺構の時期は、いずれも縄文時代中期末葉～後期前葉のものとみられる。

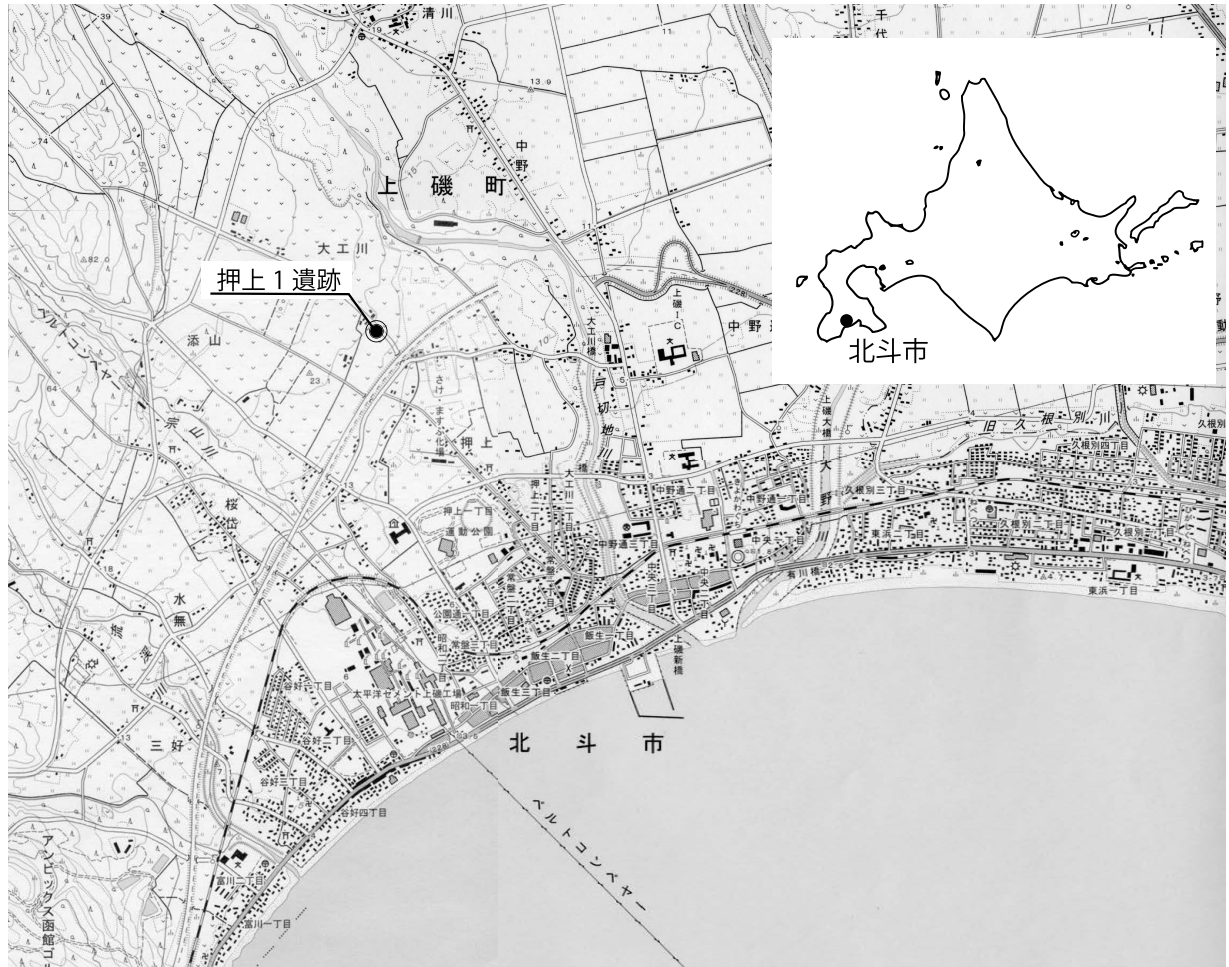
遺物は土器・石器等合わせ、コンテナ42箱分出土した。土器は縄文時代中期末葉～後期前葉のものがほとんどで、縄文時代晩期のものもわずかに認められる。特徴的な遺物としては、赤彩壺形土器(縄文時代後期前葉)がある。石器には石鏃、つまみ付きナイフ、磨製石斧などがある。



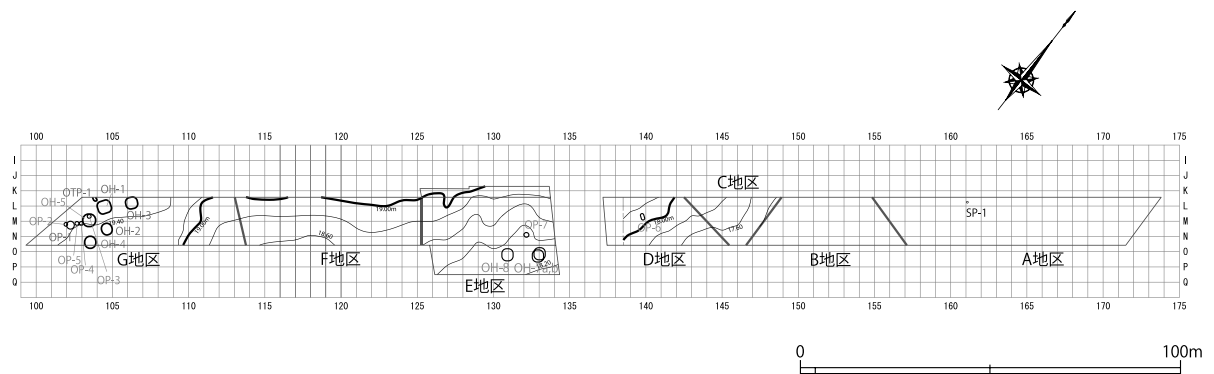
石組炉 (南東から)



遺跡全景 (南西から)



遺跡位置図 (国土地理院2万5千分の1地形図「函館」「七飯」「茂辺地」を使用)



遺構位置図

木古内町 大平遺跡 (B-05-07)

事業名：北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

所在地：上磯郡木古内町字大平63

調査面積：2,145㎡

調査期間：平成22年5月6日～11月5日

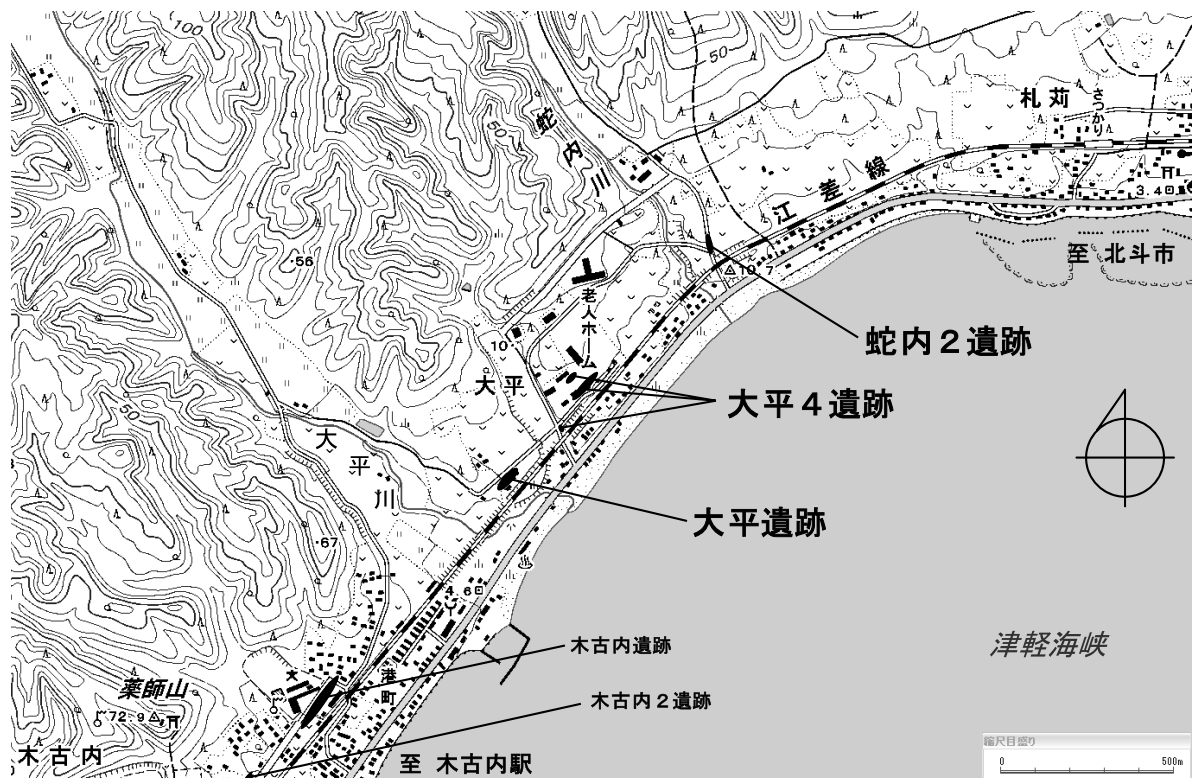
調査員：立川トマス、芝田直人、酒井秀治、佐藤和雄

調査の概要

大平遺跡の調査は、北海道新幹線の建設工事に伴うものである。平成21年度に引き続き2年目の調査となる。平成21年度の大平遺跡の調査では、丘陵尾根・斜面に位置する411㎡の調査を行い、縄文時代前期後半（円筒土器下層c～d式期）の竪穴住居跡8軒や土坑3基などを検出し、約30,000点の遺物が出土した。今年度の調査範囲は、町道大平2線を挟んだ南西側となる。

遺跡はJR木古内駅から北東へ約2km、大平川と孫七川に挟まれた海岸段丘上に立地している。地形はほぼ平坦で、標高は8～11mである。調査範囲の南西端は沢へ落ち込んでおり、標高差は5m程ある。

基本土層は、I層：表土、II層：黒色土、III層：漸移層、IV層：黄褐色土である。II層が主な遺物包含層である。調査前は住宅・家畜舎であったことから、遺跡上面は攪乱・削平を受けている。II層には白頭山-苦小牧降下火山灰(B-Tm：10世紀前半降下)・駒ヶ岳d降下火山灰(Ko-d：1640年降下)が散見される。白頭山-苦小牧降下火山灰の上をII上層、火山灰と盛土の間をII中層、盛土下をII下層とした。II中層からは、縄文前期後半を主体として中期初頭・晩期後葉・擦文文化期の遺構・遺物を検出している。



遺跡位置図 (国土地理院刊行の数値地図25000 (地図画像)「木古内」を使用)

遺構と遺物

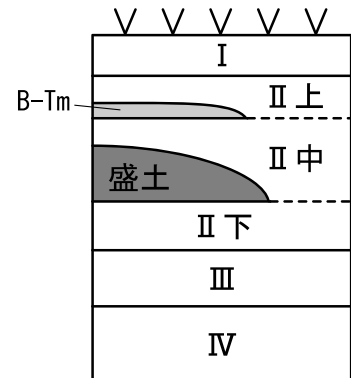
縄文時代前期後半、中期初頭、晩期後葉、擦文文化期の遺構・遺物を検出した。遺構は、竪穴住居跡17軒・土坑26基・Tピット2基・焼土57か所・集石1か所・剥片集中76か所および縄文時代前期後半を主体とした盛土遺構を検出した。時期別に分布を見てみると、遺構・遺物の主体は前期後半であり、調査範囲の全体から検出している。晩期後葉と擦文文化期は、調査範囲の南西側から確認されている。

擦文文化期の遺構は、竪穴住居跡4軒を検出している。調査区の南西側に位置し、標高8.5～9.0mの平坦面に構築されている。表土除去後にB-Tmの落ち込みとして確認した。平面形は隅丸方形で、一辺が4.9～5.1mのものが2軒(H-9・11)、3.5～4.4mのものが2軒(H-12・18)である。

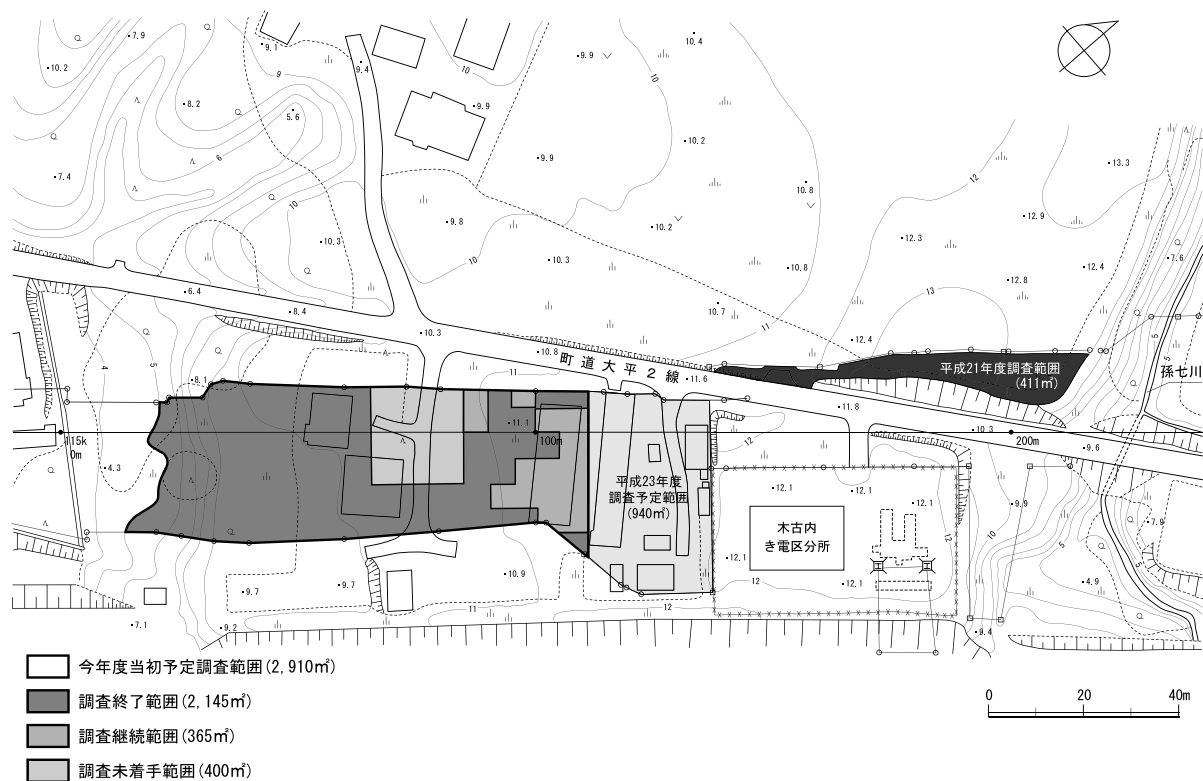
出土した遺物から、前者が8世紀後半、後者が9世紀後半～10世紀初頭と考えられる。北壁にカマドがあり、トンネル式の煙道がある。柱穴は住居内、住居外とも検出されなかった。竪穴住居跡の床面や覆土から坏や甕、礫等が出土している。

縄文時代晩期後葉の遺構は、竪穴住居跡1軒(H-19)を検出している。表土除去後にB-Tmの落ち込みとして確認した。平面形は長径4.0m程の不整楕円形である。床面中央付近から地床炉が検出されている。床面等からは時期を判断できる遺物が出土していないが、検出面周囲から大洞A式併行の土器が出土していることから、晩期後葉の竪穴住居跡と考えている。

縄文時代前期後半～中期初頭の遺構は、竪穴住居跡12軒、土坑26基、Tピット2基、焼土57か所、集石1か所、剥片集中76か所および縄文前期後半を主体とした盛土遺構が検出された。焼土・集石・剥片集中は、ほとんどが盛土遺構中から検出されている。また竪穴住居跡や土坑は、出土する遺物や遺構の



土層柱状模式図



周辺の地形と発掘調査範囲

覆土中に盛土の流れ込みが確認できることから、盛土遺構と同時期もしくはやや古い時期に構築されたと考えられる。

竪穴住居跡は、調査区外に拡がるものがあるが、平面形は円形・楕円形・隅丸長方形である。最も大きな竪穴住居跡(H-16)では、長軸13.6m・短軸10.0mの楕円形となる。そのほかの竪穴住居跡も、長径が5～11mほどの規模がある。ベンチ構造のあるものを5軒(H-13・15・16・17・29)、石組炉のあるものを1軒(H-10)検出している。主柱穴は、4本もしくは6本とみられる。H-16では壁柱穴等を含めると84本の柱穴が検出された。主柱穴は直径約0.6m、深さ1.2mに達するものが確認されている。

土坑は、平面形が円形・楕円形が主で、規模は長径が0.5～3.6mほどである。P-9からは、基部が鋸歯状に整形された頁岩製の異形デザインの尖頭器が出土している。

Tピットは、平面形が溝状で長軸3.0m・短軸0.3m・深さ1.0mほどの規模である。長軸は東-西方向であり、おおよそ等高線に対して直交する。

盛土遺構は、今年度調査範囲の約80%に広がっている。町道大平2線側は遺構の上部が削平されているが、最も厚さがある所では約0.6mの厚さが確認されている。盛土の土層断面は、町道側から中央部にかけてほぼ水平な堆積をしており、線路側の盛土遺構端部へ向かって落ち込む土層をしている。盛土遺構中からは多量の土器・石器等の遺物が出土している。個体を確認して取り上げた土器は600個体を越える。このような土器は、横倒しで潰れた状態のものが多く、なかには入れ子状になって確認されたものもある。また盛土遺構の端部では、正立や倒立した状態で出土したものがある。盛土遺構中からは、廃棄されたと考えられる焼土粒や炭化物の範囲、頁岩の剥片集中も多数確認されている。盛土遺構が形成された時期は、出土する遺物から縄文時代前期後半～中期初頭（円筒土器下層c式～円筒土器上層a式）であり、その主体となるのは円筒土器下層d式期である。

今年度調査で出土した遺物は、36ⅡBコンテナで土器667箱、石器等341箱、合計1,008箱である。

土器は、縄文時代前期後半の円筒土器下層c・d式、中期前葉の円筒土器上層a式、晩期後葉の大洞A式併行のもの、擦文土器が出土している。擦文文化期の遺物は、包含層からは出土しておらず、竪穴住居跡からのみ確認している。8世紀後半と9世紀後半～10世紀初頭の坏や甕が出土している。縄文時代晩期後葉の遺物は、B-Tmから数cmほど黒色土を挟んだ下から出土している。調査区の南西側、竪穴住居跡(H-19)の近くを中心とした範囲からはまとまって検出され、浅鉢や壺とみられる土器を確認している。前期後半～中期前半の遺物は、盛土遺構を主体として調査範囲の全体から出土している。出土土器は円筒土器下層d式が主体で、盛土遺構の最下層に円筒土器下層c式、最上層に円筒土器上層a式が見られる。

石器等は、剥片石器では頁岩製がほとんどを占め、石鏃・つまみ付きナイフ・スクレイパー等が、礫石器ではたたき石・すり石等が出土している。土・石製品では、土製円盤、耳栓、滑石製の玦状耳飾り、玉類、黒曜石製の異形石器、頁岩製の異形石器、異形デザインの尖頭器などが出土している。



大平遺跡遺構位置図



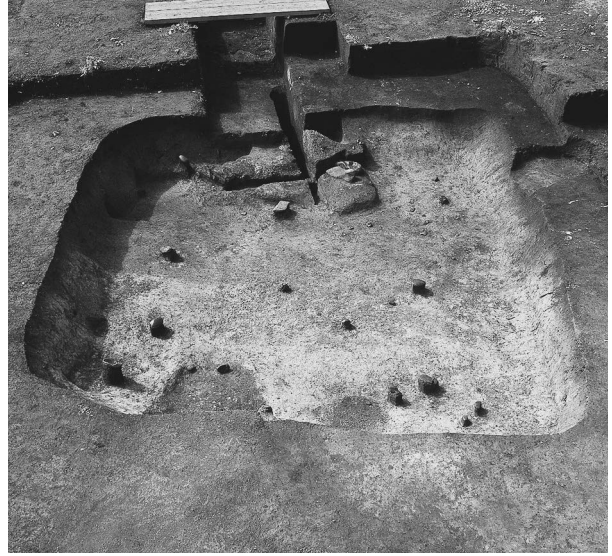
調査状況



盛土遺構遺物出土状況



豎穴住居跡 (H-11)



豎穴住居跡 (H-18)



豎穴住居跡 (H-16)



豎穴住居跡 (H-28)



盛土遺構土層断面



盛土遺構遺物出土状況

木古内町 大平 4 遺跡 (B-05-29)

事業名：北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

所在地：上磯郡木古内町字大平60

調査面積：2,011㎡

調査期間：平成22年7月7日～11月5日

調査員：立川トマス、芝田直人、酒井秀治

調査の概要

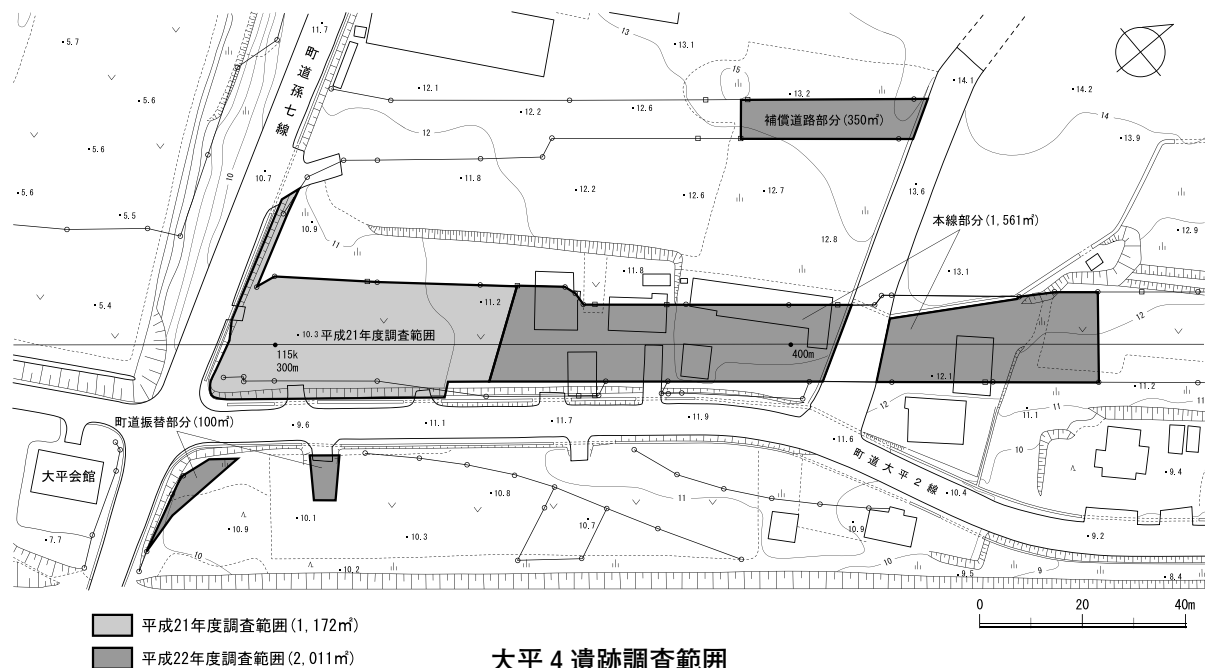
遺跡はJR木古内駅から北東へ約2km、孫七川左岸の海岸段丘上に位置する。地形は北から南へ緩やかに傾斜しており、標高は7～13mである。基本土層は、I層：表土・耕作土、II層：黒色土、III層：漸移層、IV層：黄褐色土で、主にII層より縄文時代の遺構・遺物が検出されている。

平成21年度より引き続く、第2次調査である。昨年度は1,172㎡を調査し、縄文時代早期・前期・晩期の土坑26基・焼土2か所・集石1か所・剥片集中14か所が検出された。今年度は、昨年度の調査範囲と接する本線部分(1,561㎡)、北側の補償道路部分(350㎡)、南側の町道振替部分(100㎡)の3地点、計2,011㎡を調査した。

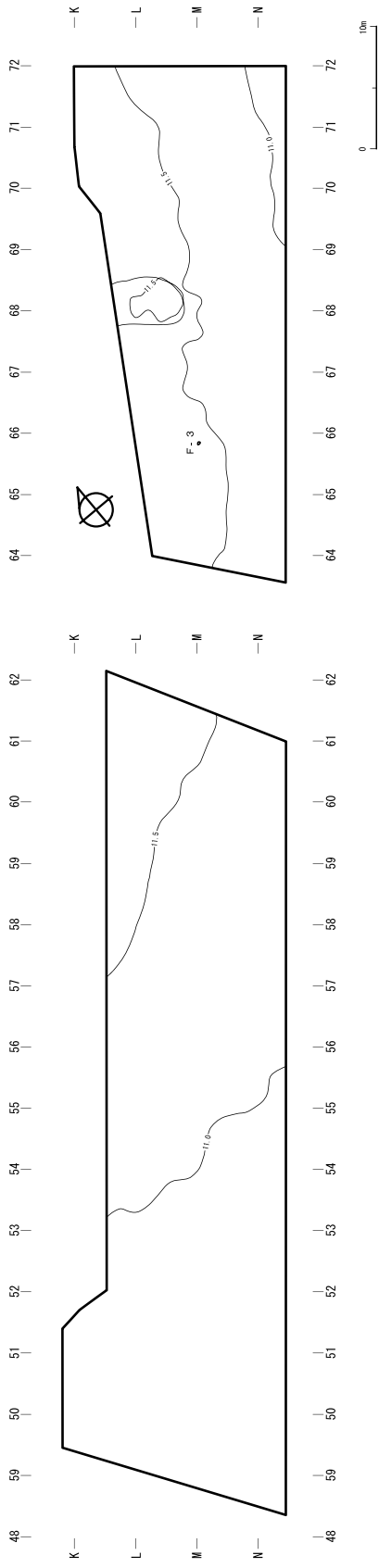
遺構と遺物

遺構は、竪穴住居跡2軒(縄文時代早期後半)、土坑2基(縄文時代前期後半1・同晩期中葉1)、焼土1か所(不明)、剥片集中2か所(縄文時代前期後半)が検出された。本線部分は焼土1か所(F-3)のみで、遺構は希薄である。補償道路部分は剥片集中2か所(FL-15・16)が北東端に分布しており、調査範囲外の山側へ続くと考えられる。町道振替部分は、昨年度調査範囲と同様に、遺構が南東側の段丘斜面に密集している。H-1・2は径2mほどの住居跡で、床面は硬くしまっているが、炉跡は確認されなかった。P-28の坑底部からは大洞C₂式の壺が横倒しの状態で出土した。

遺物は、土器約700点、石器等約13,000点が出土した。土器は、縄文時代前期後半の円筒土器下層b式が最も多く、同早期後半の東釧路IV式がこれに次ぐ。ほかに同晩期中葉の大洞C₂式などがある。石器等は、石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、たたき石、北海道式石冠などが見られる。

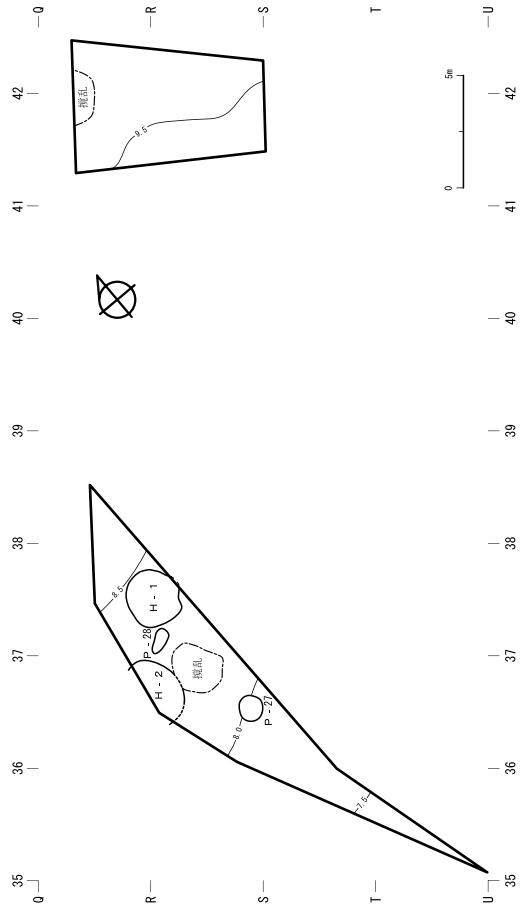


本線部分

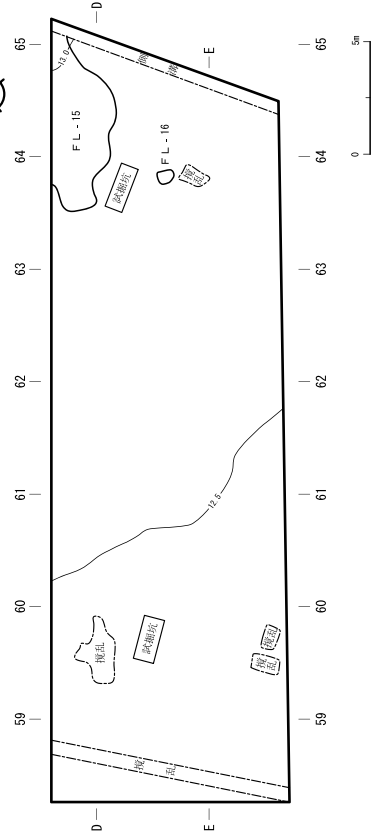


町道替部分

H: 竪穴住居跡 F: 焼土
P: 土坑 FL: 剥片集中



補償道路部分



大平 4 遺跡遺構位置図



調査状況（補償道路部分）



調査状況（本線部分）



調査状況（町道振替部分）



竪穴住居跡（H-1）



縄文時代晩期の土坑（P-28）



遺物出土状況（P-28）



剥片集中（FL-15）



縄文時代前期の土坑（P-27）

木古内町 蛇内2遺跡 (B-05-19)

事業名：北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

所在地：上磯郡木古内町字札苅509・510・513・518・521

調査面積：850㎡

調査期間：平成22年5月6日～7月2日

調査員：芝田直人、佐藤和雄

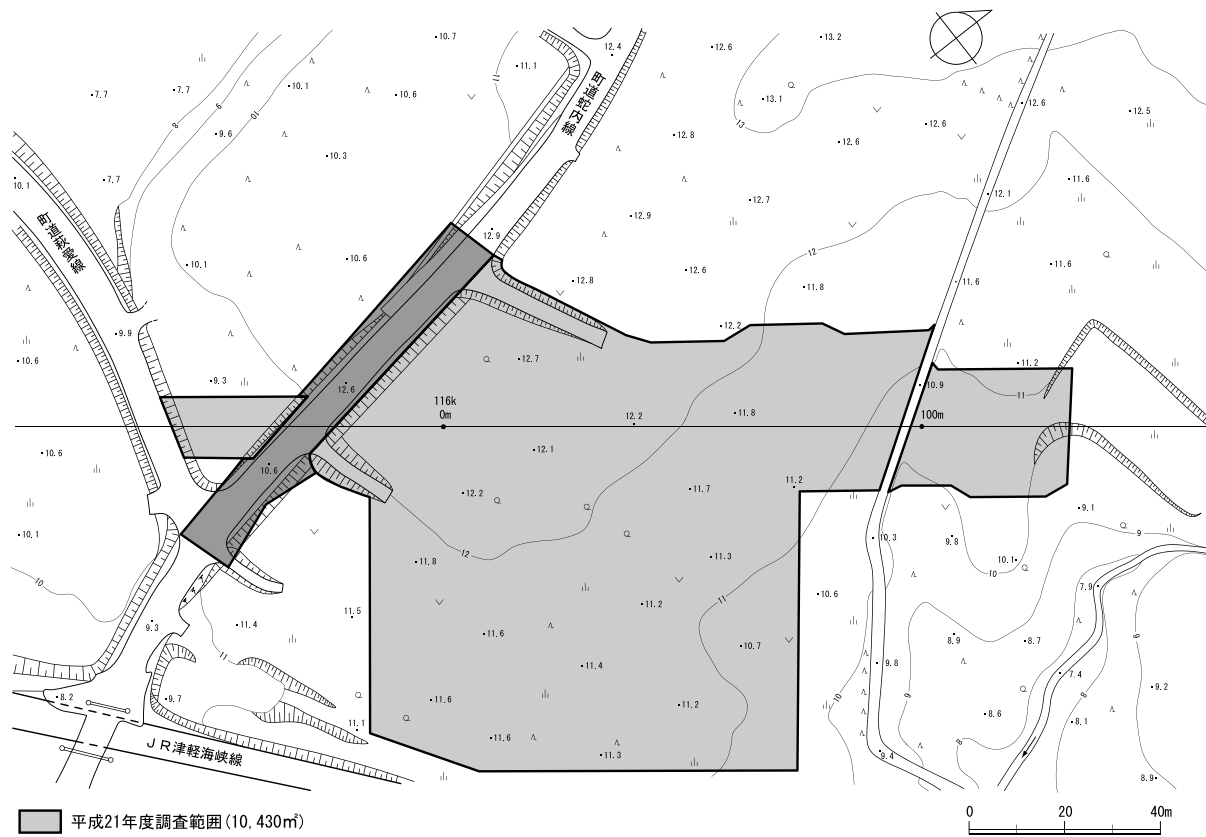
調査の概要

遺跡はJR木古内駅から北東へ約2.8km、蛇内川左岸の海岸段丘上に位置する。地形は北から南へ緩やかに傾斜しており、標高は8～12mである。調査範囲の南側には旧河道と見られる沢地形がある。基本土層は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：漸移層、Ⅳ層：黄褐色土である。Ⅱ層が主な遺物包含層である。調査前は道路であったため、遺跡の上面は路盤・側溝等により攪乱されている。Ⅱ層中からは白頭山-苦小牧降下火山灰 (B-Tm：10世紀前半降下) や駒ヶ岳d降下火山灰 (Ko-d：1640年降下) が散見される。

平成21年度より引き続き、第2次調査である。昨年度は10,430㎡を調査し、縄文時代早期～後期の竪穴住居跡8軒・土坑90基・焼土14か所・集石1か所・一括土器5か所・剥片集中9か所が検出された。今年度は、昨年度の調査範囲に挟まれた、町道蛇内線の切り下げ工事部分を調査した。

遺構と遺物

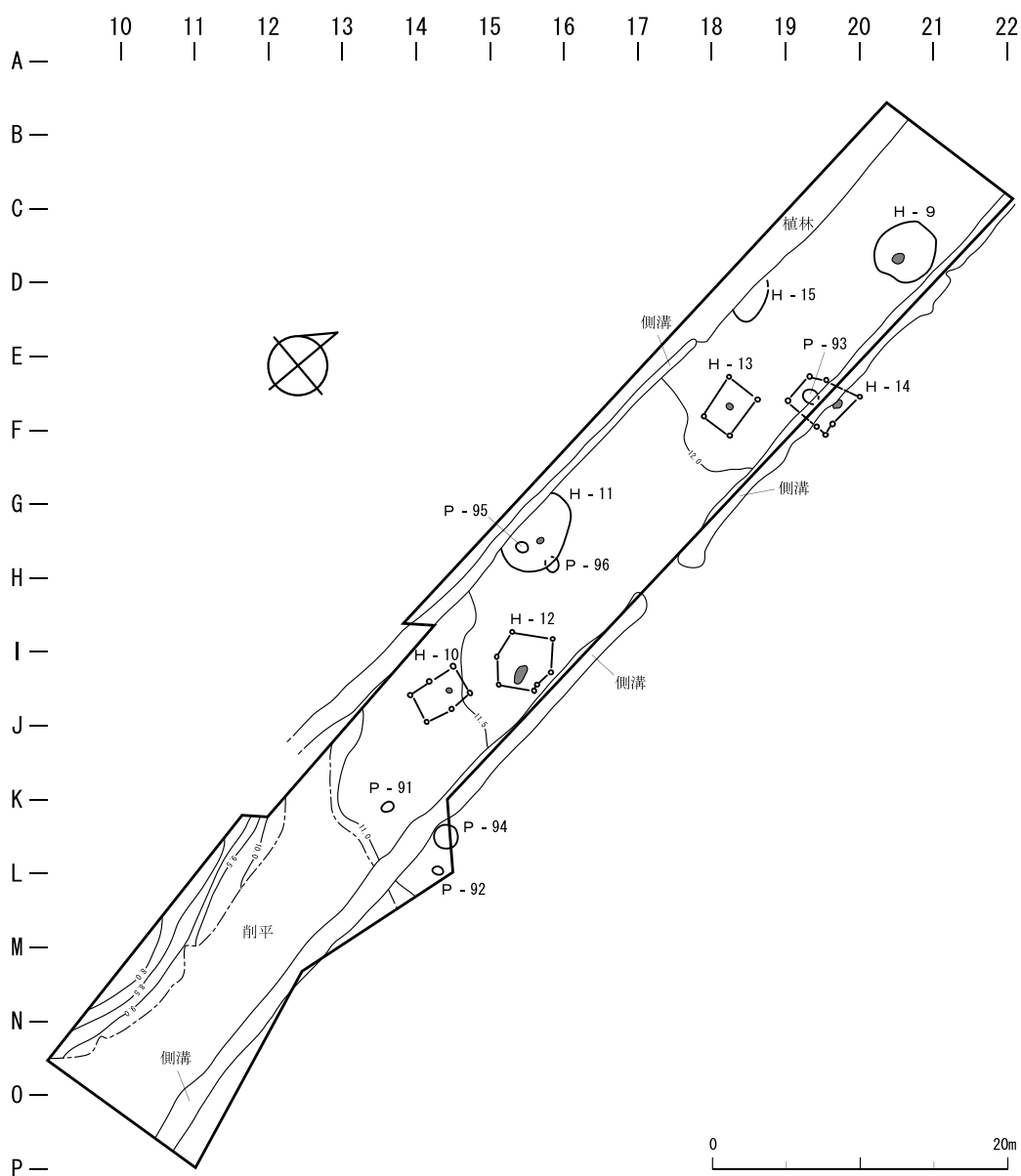
遺構は、竪穴住居跡7軒（縄文時代前期後半1・同後期前葉6）、土坑6基（縄文時代前期後半2・同後期前葉4）が検出された。縄文時代前期後半の住居跡 (H-11) は、床面に6本の柱穴が設けられ



蛇内2遺跡調査範囲

ていた。縄文時代後期前葉の住居跡のうち、掘り込みが確認できたのは2軒（H-9・15）で、このほかの4軒（H-10・12・13・14）は道路路盤の攪乱^{かくらん}により、炉跡と柱穴のみが残存していた。H-9の床面からは石組炉が検出された。土坑のうち2基（縄文時代前期後半1・同後期前葉1）はフラスコ状である。縄文時代後期前葉のフラスコ状土坑（P-94）は、掘り込みの上部が礫混じりの黄褐色粘土（IV層土）によって塞がれていた。

遺物は、土器約9,000点、石器等約2,600点が出土した。土器は、縄文時代前期後半の円筒土器下層d式が最も多く、同後期前葉の大津式がこれに次ぐ。ほかに同早期後半の東釧路IV式、同前期後半の円筒土器下層b式などがある。石器等は、石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、たたき石、すり石などが見られる。剥片石器の石材はほとんどが頁岩^{けつがん}である。昨年の調査範囲と同様に、海岸から持ち込まれたと考えられる円礫・亜円礫が、遺物包含層から多量に出土している。礫の石質は主に頁岩・砂岩・凝灰岩であり、石器原材料としての用途が推測される。



蛇内2遺跡遺構位置図



遺跡全景



調査状況



竪穴住居跡 (H-9)



竪穴住居跡 (H-11)



竪穴住居跡 (H-15)



竪穴住居跡 (H-12)



フラスコ状土坑 (P-93)



フラスコ状土坑 (P-94)

木古内町 木古内遺跡 (B-05-3)

事業名：北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

所在地：上磯郡木古内町字木古内55-1ほか

調査面積：7,716㎡

調査期間：平成22年5月10日～10月29日

調査員：村田 大、土肥研晶、新家水奈、愛場和人、阿部明義、大泰司 統

調査の概要

遺跡はJR木古内駅から北東へ約1km、標高6～11m程の海岸段丘上に位置する。調査区は北から南へごく緩やかに傾斜しており、南端部は沢に挟まれた舌状の地形となっている。

基本土層はI層：表土、II層：黒色土、III層：漸移層、IV層：黄褐色土層で、II層が主な遺物包含層である。遺構覆土中からは駒ヶ岳d降下火山灰(Ko-d：1640年降下)や白頭山-苦小牧降下火山灰(B-Tm：10世紀前半降下)のほか焼土様赤色土壌が特徴的にみられた。遺跡の現況は宅地で、調査区はIII～IV層まで広範囲に削平・攪乱を受けていた。本遺跡は23年度以降も隣接する東側の地区について調査が予定されている。

遺構と遺物

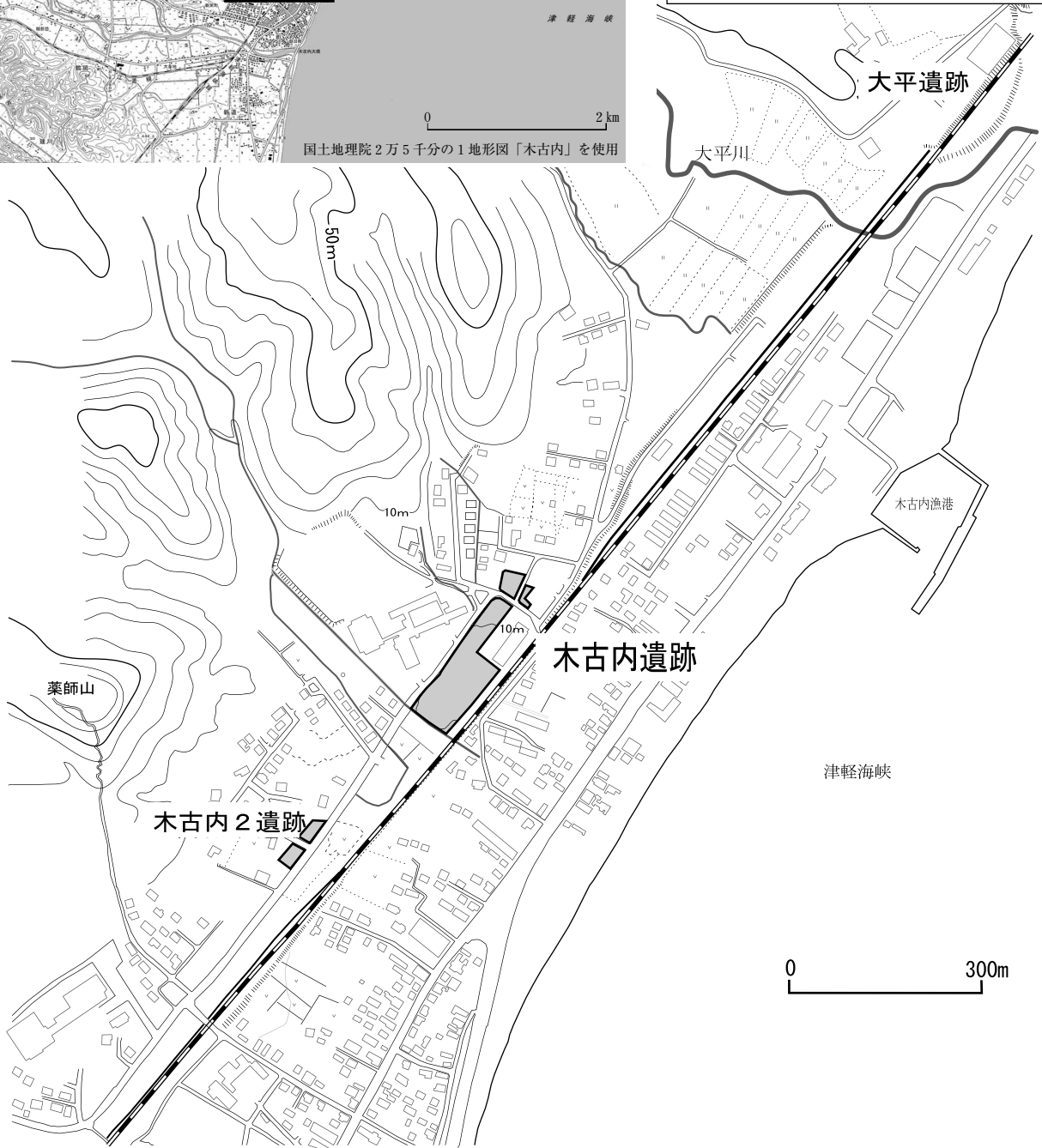
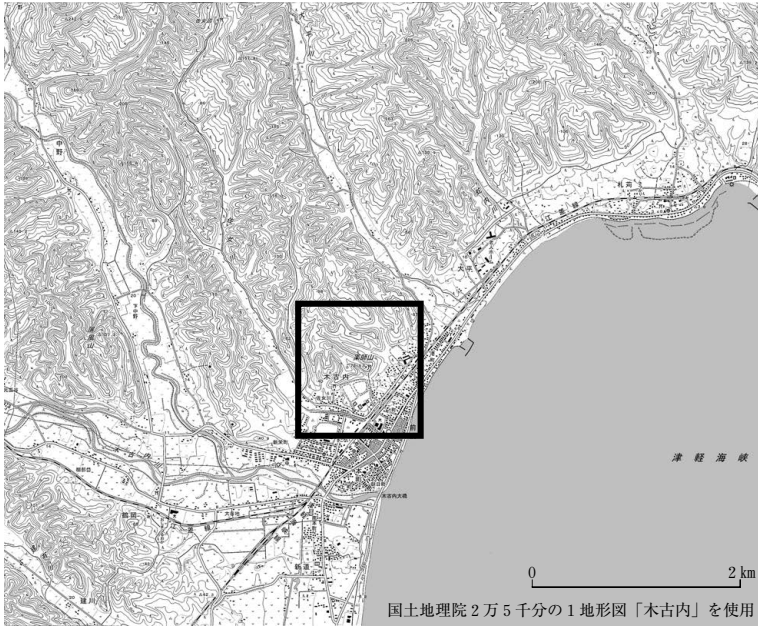
遺構は竪穴住居跡26軒・土坑135基・Tピット9基・焼土4か所・フレイク集中3か所・集石2か所を検出した。擦文文化期の竪穴住居跡2軒(SH-1・2)と土坑1基(P-12)以外は縄文時代の遺構である。

擦文文化期の竪穴住居跡2軒はいずれも北西壁側にカマドとトンネル式の煙道がある。遺物は甕・^{つみ}坏・棒状礫・^{ぼうすいしや}紡錘車などが出土し、時期は土器から8世紀後半から9世紀頃と考えられる。P-12は坑底面が約125×70cmの長方形となる土坑墓で、底面から人骨(頭・^{すね}脛の一部)を検出した。骨の保存状態は悪く、残存部も糊状に近い状態であったが、遺体は頭位を北西、体の右側を下とした屈葬と考えられる。遺物は伴っていないが、時期は中近世の可能性はある。

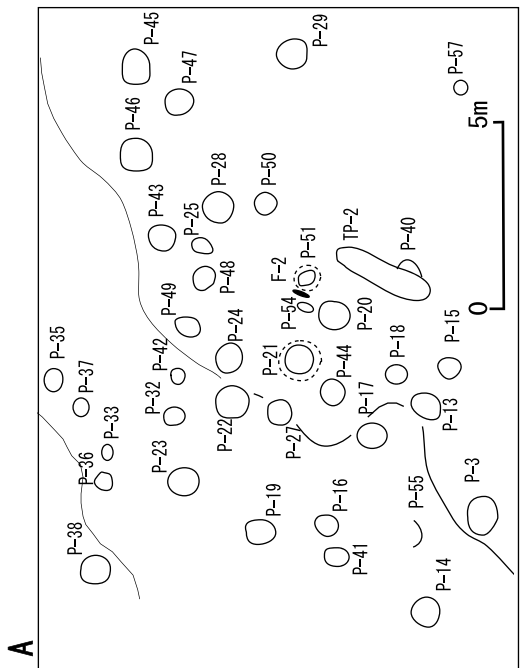
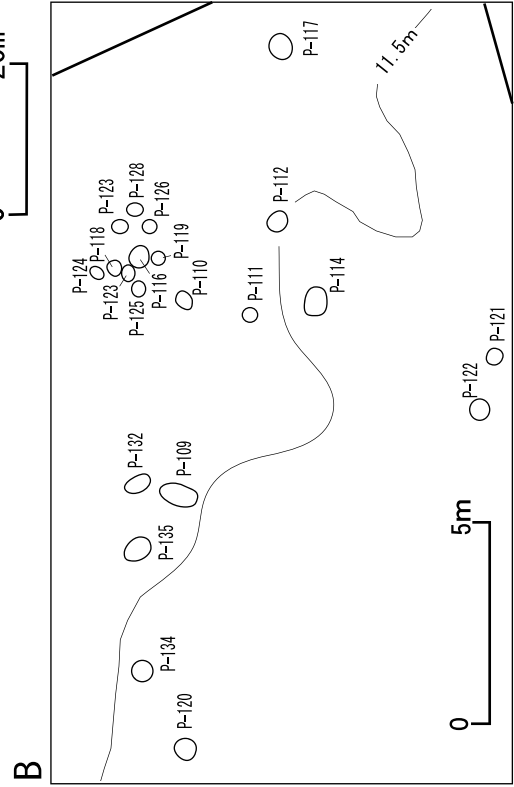
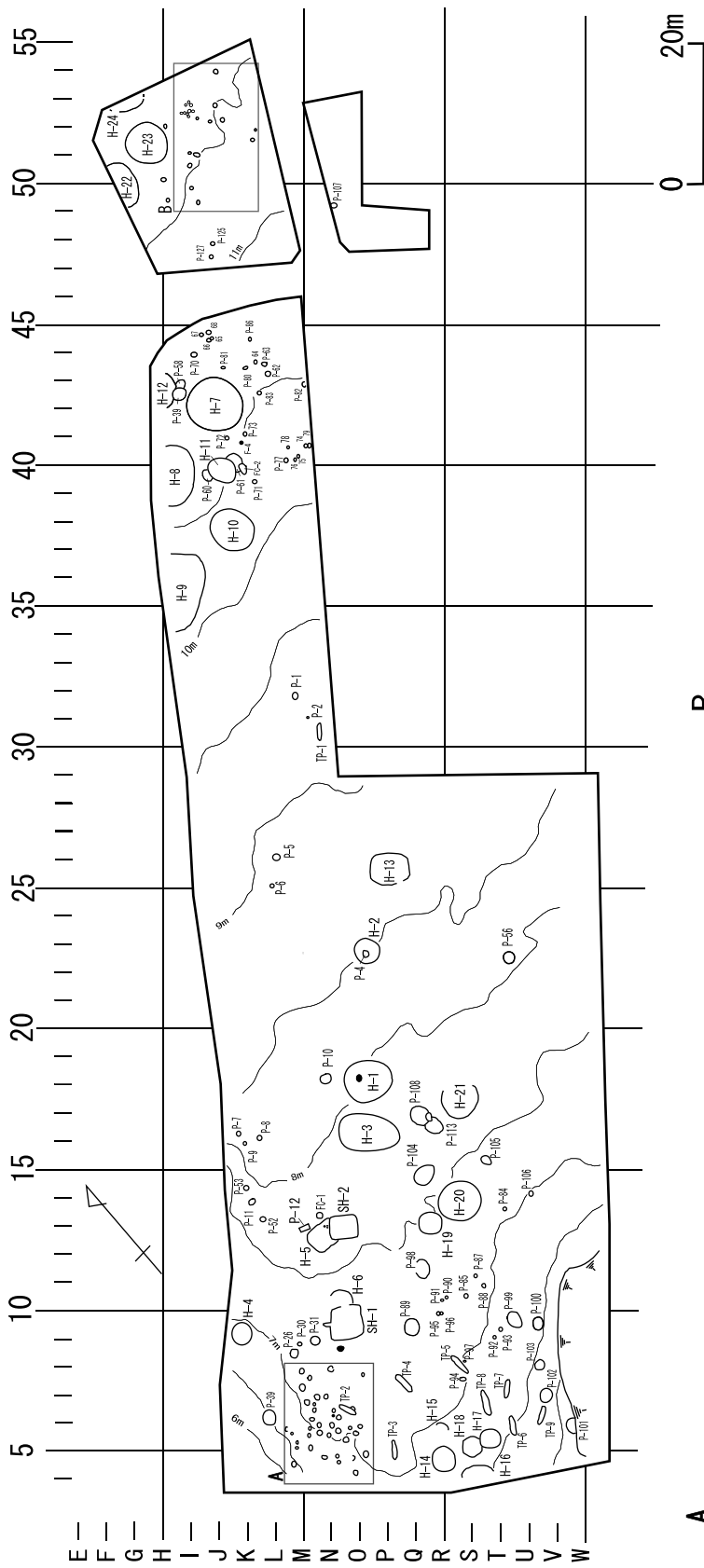
縄文時代の竪穴住居跡は24軒で、早期7軒、前期8軒、後期6軒(その他は不明)である。早期の竪穴住居跡(H-1～3・13・19～21)は調査区中央部に分布し、平面形が円形・多角形となるものが多い。時期は出土土器から早期後半期と考えられる。H-20では床面からたたき石・石核・フレイクが数か所でまとまって出土しており、石器の製作址と想定される。前期の竪穴住居跡(H-7～12・22・23)はいずれも円筒土器下層式期のもので、調査区北側に分布する。長径11mを超える大型の住居跡やベンチ構造がみられるものがある。後期の竪穴住居跡(H-4・6・14・15・17・18)は調査区南西の舌状台地先端部にみられる。平面形が円形・多角形で、石組炉をもつ後期前葉のものである。

調査区南側と北側では直径約50cm～1mの小土坑がまとまって検出された。南側の土坑群は断面形がフラスコ状を呈し、後期前葉の土器が覆土中から出土するものがある。北側の土坑群は直径50cm程の小型ものが多く、遺物は少ないが早期後半の土器が一部にみられる。また早期住居跡周辺では同時期の楕円形・不整形の土坑が分布し、土器やフレイクが覆土中から多量に出土する。

遺物は土器約34,000点、石器等約71,000点出土している。土器は擦文土器・縄文時代早期後半の東釧路Ⅱ～Ⅳ式土器・前期後半の円筒土器下層式・後期前葉の土器が多い。石器は定型石器が比較的少なく、頁岩製の石核やフレイク、礫などが多くみられる。



遺跡位置図



遺構位置図



調査状況（北東から）



縄文時代早期竪穴住居跡（H-1）



縄文時代前期竪穴住居跡（H-11）



縄文時代後期の土坑群（南から）



擦文文化期の竪穴住居跡（SH-1）



擦文文化期の竪穴住居跡遺物出土状況（SH-2）

木古内町 木古内 2 遺跡 (B-05-28)

事業名：北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査

委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

所在地：上磯郡木古内町字本町456-9ほか

調査面積：950㎡

調査期間：平成22年5月7日～7月7日

調査員：新家水奈、阿部明義

調査の概要

木古内 2 遺跡は、木古内遺跡から低地部をはさんで南西約150m、標高10m前後の台地上に位置する。調査区北側地区の段丘縁辺部に遺構が集中しており、北海道教育委員会の試掘調査の結果、隣接する低地部分にも遺物包含層が確認され、平成23年度以降にも発掘調査が予定されている。

遺構と遺物

今回の調査では縄文時代前期後半の大型竪穴住居跡 3 軒(H-1・2・5)、小型竪穴住居跡 3 軒(H-3・4・6)、フレイク集中 1 か所が検出された。遺物総点数は約9,000点であるが(表参照)、このうち約3,000点は水洗選別により検出された微細剥片(チップ)である。

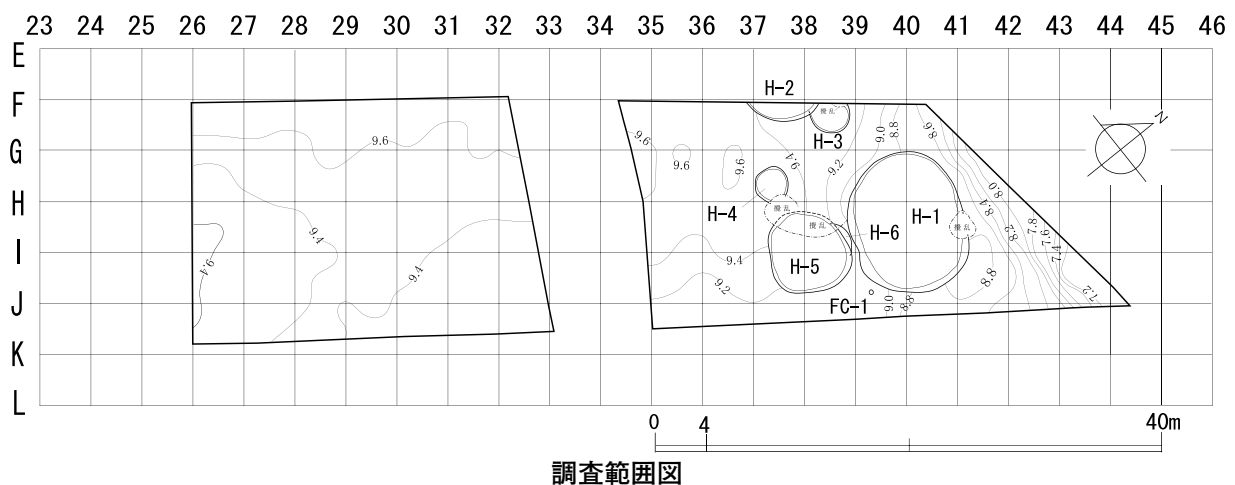
最も大きい住居跡H-1は、平面形が楕円形で、径約11×9m、深さは約1.2mであった。床からは直径30～40cm、深さ60～80cmの柱穴が11本見つかった。他の大型住居跡H-2・H-5では、途切れ途切れではあるが床面から周溝が検出された。また、H-1・H-5の床面の中央部付近には、砂を埋めた小土坑がみついている。

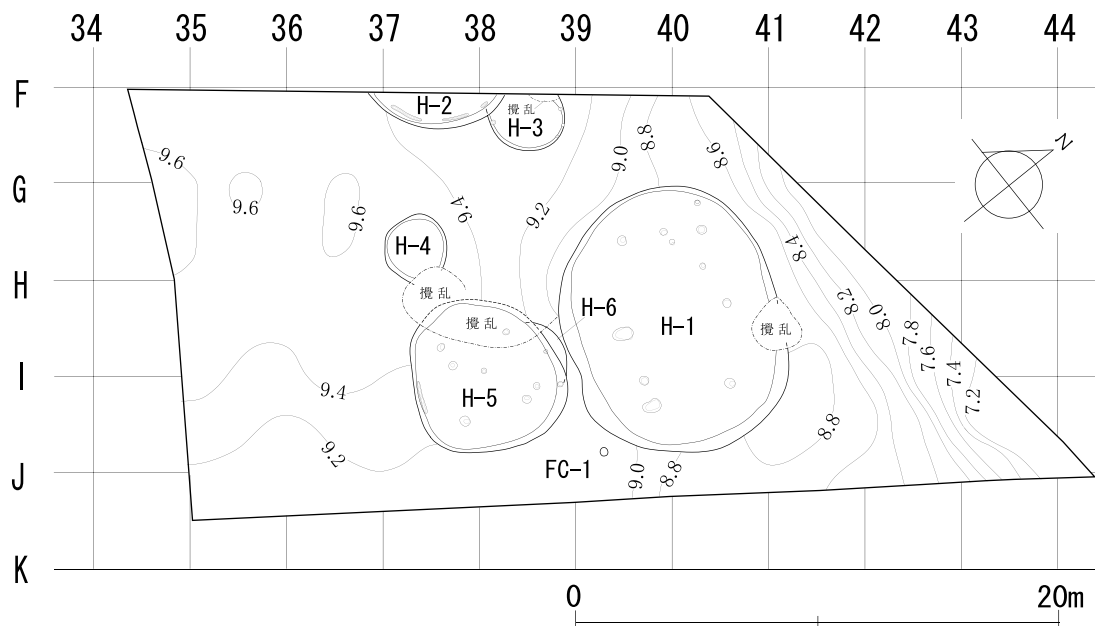
一方、小型住居跡は、直径約3m、深さ30～40cmの円形で、大型の住居跡よりやや古いと思われる。

大型住居跡の覆土の上層部や周辺の包含層では、縄文時代前期の遺物のほか後期初頭の遺物も出土している。

出土遺物点数

	土器	石器	計
遺構	2,438	5,496	7,934
包含層	711	645	1,356
総計	3,149	6,141	9,290





遺構位置図（北側地区）



H-1 遺物出土状況



完掘状況（北側地区）

ふくしまちょう たてさき いせき
福島町 館崎遺跡 (B-03-2)

事業名：北海道新幹線建設事業のうち吉岡神通機器室の増設工事に伴う埋蔵文化財調査
委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局
所在地：松前郡福島町字館崎337-11ほか
調査面積：894㎡
調査期間：平成22年4月12日～8月19日
調査員：遠藤香澄、中山昭大、影浦 覚、福井淳一、柳瀬由佳、吉田裕吏洋

調査の概要

遺跡は、北海道最南端白神岬^{しらかみみさき}の北東約6km、吉岡川河口右岸の海岸段丘上（標高約24m）にある。調査区の海岸からの直線距離は約250m。

当初、平成21年度中に調査を完了させる計画であったが、遺構密度、遺物出土量が多いため、平成22年7月末完了を目途に調査を延長した。平成21年度はおおむねIラインより南側の調査を完了させ、今年度はIラインより北側の調査を行った。過去には、青函トンネル工事吉岡基地拡張などにより福島町教育委員会が三次の調査を実施している。

遺跡の基本土層は、I層：表土・耕作土、II層：盛土層、III層：黒色土層、IV層：漸移層、V層：黄褐色土とした。調査区内全域で盛土ないし掘削といった人為的地形改変がなされていた。

遺構と遺物

二か年の調査で、盛土遺構のほか、竪穴住居跡52軒、土坑墓6基、土坑111基、Tピット1基、小柱穴390基、集石27か所、焼土97か所、フレイク集中34か所、配石列3条、杭穴列2条、道路跡1条などが確認された。以下時期の細分毎に概説する。

①縄文時代早期末葉：土坑が2基確認された。

②縄文時代前期末葉：長軸を北東—南西方向にもつように竪穴住居が構築される。掘上土を周囲に敷きつめる（厚さ20cmほど）。

③縄文時代前期末葉～中期前葉：長軸を北西—南東方向にもつように竪穴住居が構築される。盛土遺構が形成され、本遺跡の構造が確定したとみなされる。その構造とは、道路—墓域—居住域—盛土遺構という構成で、道路を中心に線対称になるように配置されたと考えられる。

盛土遺構は、形成された時期により色調や包含物、内容が異なり、大きく3つに分けられる。A盛土：暗褐色の色調で遺物量は少ない。B盛土：黒褐色と黄褐色の色調を持つ土層が互層となっている。遺物量が多く、多量の土器のほか、礫や炭化物、焼骨が含まれる。C盛土：黄褐色の色調で遺物量は少ない。部分的に炭化物層を挟む。貝層もあり、海獣骨も含まれる。

A盛土およびB盛土は、当時の地表面、即ちIII層上面に盛土したものである。また、盛土遺構形成前の竪穴住居跡の凹みを埋積するようにも盛土している。A・B盛土下位の黒色土上面からは2条の杭穴列が確認された。杭穴列の並びから判断すると各盛土の崩落を防ぐための土留めとして打ち込まれたものと理解される。C盛土は繰り返し住居を構築、埋積した結果として堆積したものである。

なお、盛土遺構は、昭和48年度の第一次調査では「土器集積址」、「再堆積層」、昭和59年度の第二次調査では「土器塚」として表現されている。

道路跡は、黄褐色土を掘り込んで凹んだ状態が直線的に確認された。道路面には、踏み固めによる斑状堆積が見られ、硬化していた。遺物はほとんど含まれず、周辺の遺物包含状況と著しく異なっていた。

墓域は、道路跡を挟んで両側に形成されたとみられる。フラスコ状の形態を持つ土坑を主体とする。繰り返された住居の掘削、盛土により、土坑の重複、削平という現象も観察された。フラスコ状土坑2



遺跡位置図 (国土地理院発行 2万5千分の1地形図「渡島吉岡」を使用)



遺跡全景 (北西から)

基のほか、長楕円形の土坑3基、竪穴住居跡ベンチ上から人骨が1体ずつ合計6体分検出された。また、円形の大型土坑からは8体分の頭蓋骨を含む人骨が確認されている。

居住域は、B盛土と道路跡に挟まれた細長い空間に繰り返し住居が構築されている。繰り返し同地点で住居が構築された結果、古い住居を壊して黄褐色土に掘り込んだ住居のほか、黄褐色土を掘り込んだ床面だけが検出できた住居、埋められた住居の上部に貼床して構築された住居などが確認された。

④縄文文化後期前葉：中期の道路跡周辺の上位に盛土遺構が残されていた(D盛土)。中期の盛土のように分層できる状態ではなく、単一層のように見える。また、印象として後期より古い遺物はほとんど含まれていなかった。中期前半の住居密集区から住居跡も1軒確認されている(TH-7)。

遺物は、土器・石器等あわせて、コンテナ約2,000箱、推計点数90万点出土した。

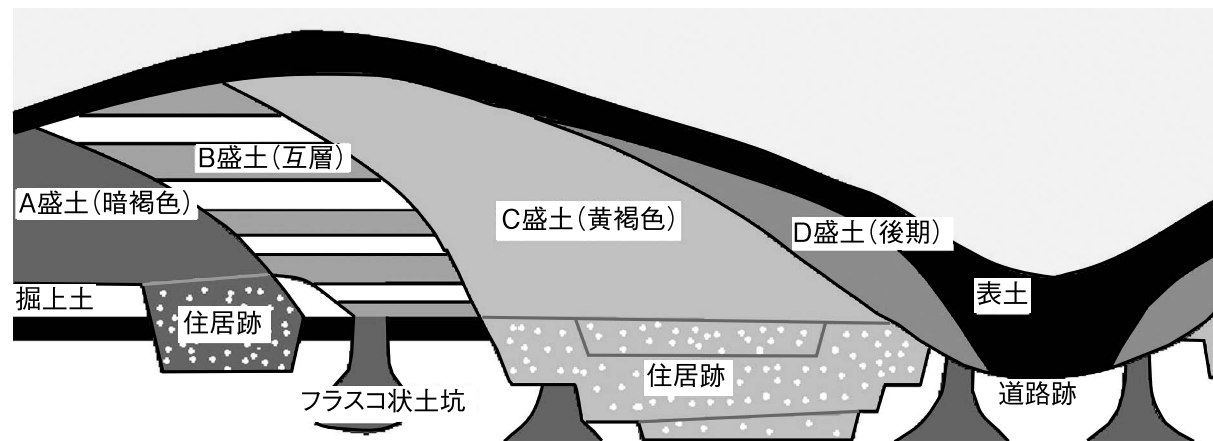
土器は、円筒土器下層d式、円筒土器上層a式、円筒土器上層b式、サイベ沢Ⅷ式、見晴町式を主体とする。ほかに、後期前葉の土器があり、早期、晩期の土器は僅かにある。

石器は、剥片石器では石鏃が目立ち、礫石器では北海道式石冠、半円状扁平打製石器が多い。剥片石器の石材はほとんどが頁岩である。

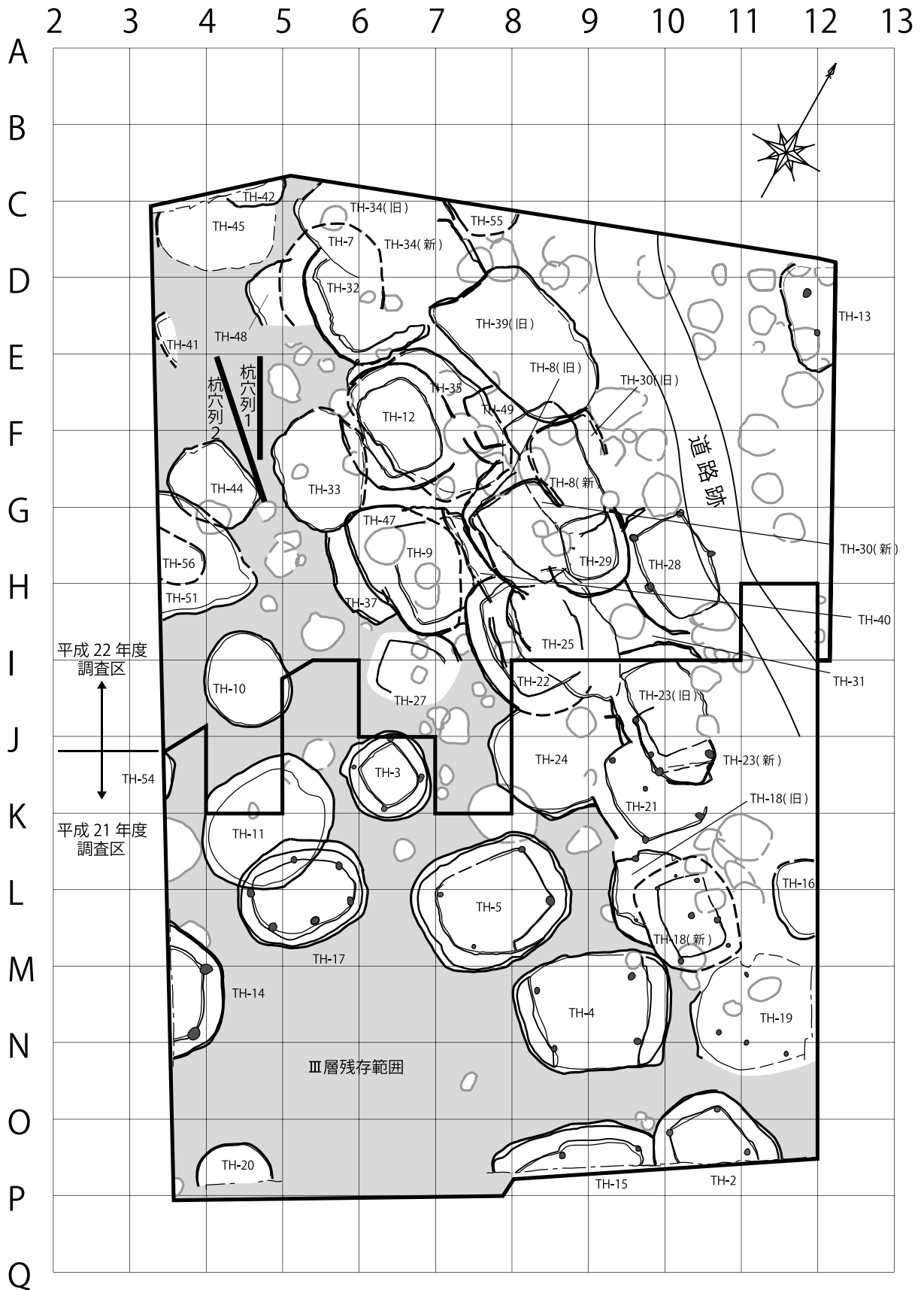
骨角器は、焼けた状態で確認され、銚頭、結合式釣針、骨針、鯨骨加工品などがある。

そのほか、土偶、鐸形土製品、滑石製塊状耳飾、石棒、異形石器なども出土している。中でも滑石製塊状耳飾は30点以上出土している。滑石産地が松前町大鴨津川、小鴨津川流域にあり、加工痕跡の残るものもあることから、当遺跡で生産していた可能性が考えられる。

動物遺存体はクジラ類、イルカ類、アシカ類、オットセイ、エゾシカといった哺乳類、アオザメ、カレイ類などの魚類、アワビ、クボガイなどの貝類を検出している。植物遺存体は、クルミ、クリを確認している。



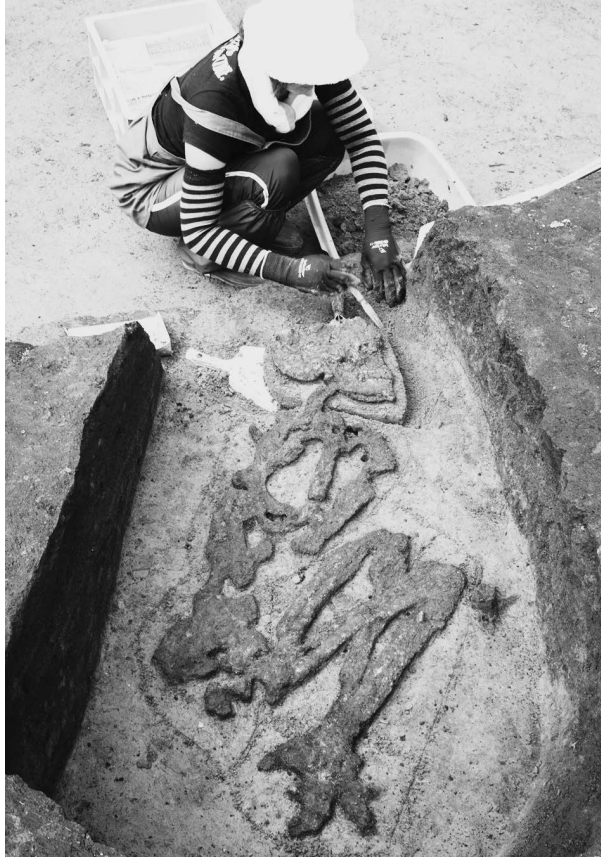
遺跡構造断面模式図



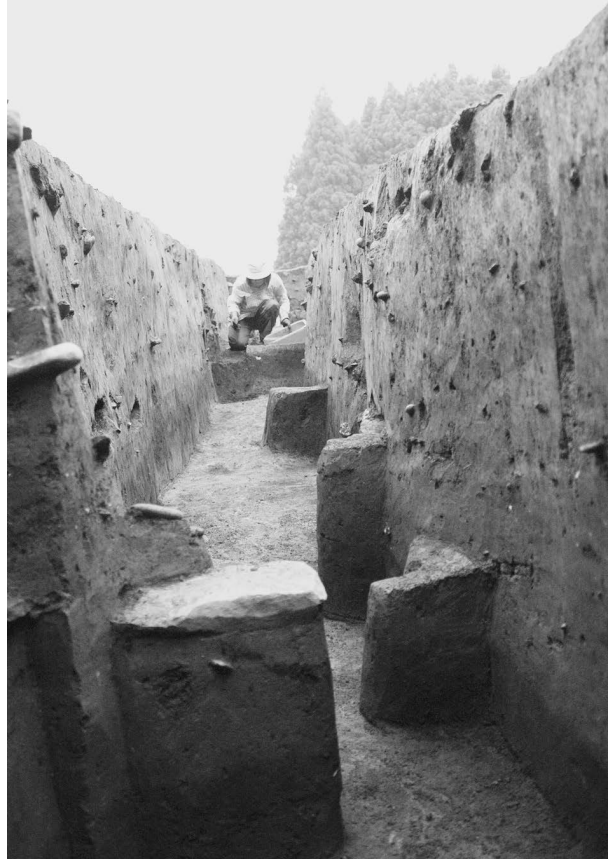
* TH は竪穴住居跡、数字のない遺構は土坑 (TP)

0 40m

遺構位置図



人骨取り上げ作業（北東から）



盛土遺構調査状況（北西から）



盛土遺構遺物出土状況（北から）



杭穴列検出（南東から）



盛土遺構断面（南東から）



複雑に重複する竪穴住居跡(南東から)



雨天時の土層剥ぎ取り作業(南西から)



調査状況(北東から)



もりまち もりかわ いせき
森町 森川6遺跡 (B-14-52)

事業名：森インター線交付金工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：渡島総合振興局

所在地：茅部郡森町字森川町302-1、22、26、317-5ほか

調査面積：1,800㎡

調査期間：平成22年7月12日～10月19日

調査員：土肥研晶、阿部明義

調査の概要

遺跡は森町市街地の南側、海岸線から約2km、内浦湾に注ぎ込む茅部中の川左岸の台地斜面に立地する。標高は約90mで、斜面は緩やかに北東に傾く。

基本土層はⅠ層からⅧ層に分層した。Ⅰ層：表土、Ⅱ層：駒ヶ岳d降下火山灰層（Ko-d、1640年降下の軽石層が1.5～2m堆積する。上位は細砂、中位は細砂礫、下位は砂礫である）、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：白頭山-苦小牧降下火山灰（B-Tm、10世紀前半降下）、Va層：黒色土、Vb層：Ko-g混じり黒褐色土層で、含まれる軽石の量で、上位層と下位層に分層した。Ⅵ層：駒ヶ岳g降下火山灰層（Ko-g、約6,000年前降下層、土色と含まれる軽石の粒径から上位と下位に分けた）、Ⅶ層：暗褐色粘質土、Ⅷ層：にぶい黄褐色土層（濁川カルデラ起源の火砕流堆積物層）である。

遺構と遺物

Ⅲ層中より近世の畑跡を検出した。畝の痕跡は、Ⅲ層上面では確認出来ないが、Ⅳ層付近まで掘り下げると、Ⅳ層を切りVa層に達する黒色土が縞状に並ぶ状況で検出された。

また、Va層面まで下げると、畝と重なる耕作痕が検出される場所があった。

断面では、明瞭な耕作面が観察出来ず、Ⅲ層中のどこかで耕作されているとみられるが、Ⅲ層の土質も均一であることから、耕作は1640年に近いものと考え、近世の畑跡とした。調査区内では、畝の広がり北側と西側の境が検出されたが、東側にはまだ広がるものとみられる。

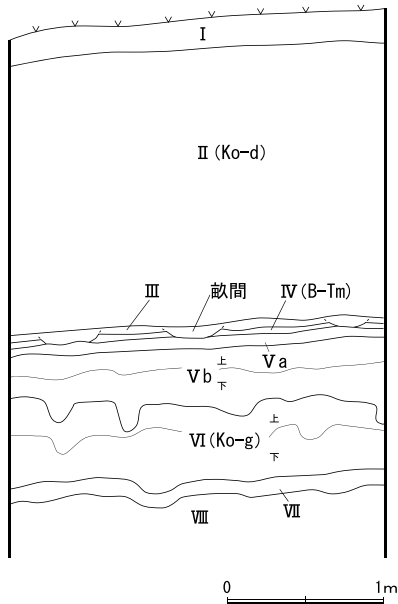
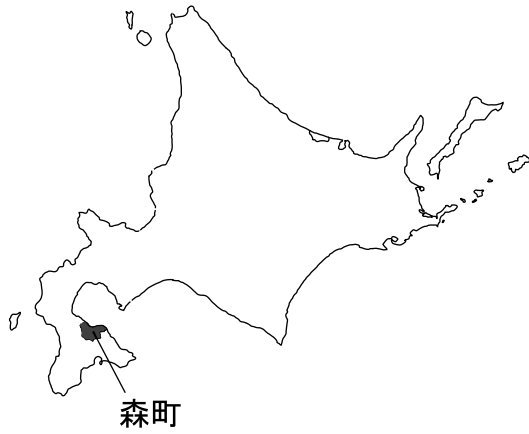
縄文時代の遺構は確認されなかったが、Vb層からは縄文時代中期、後期前葉、晩期中葉の遺物が出土している。



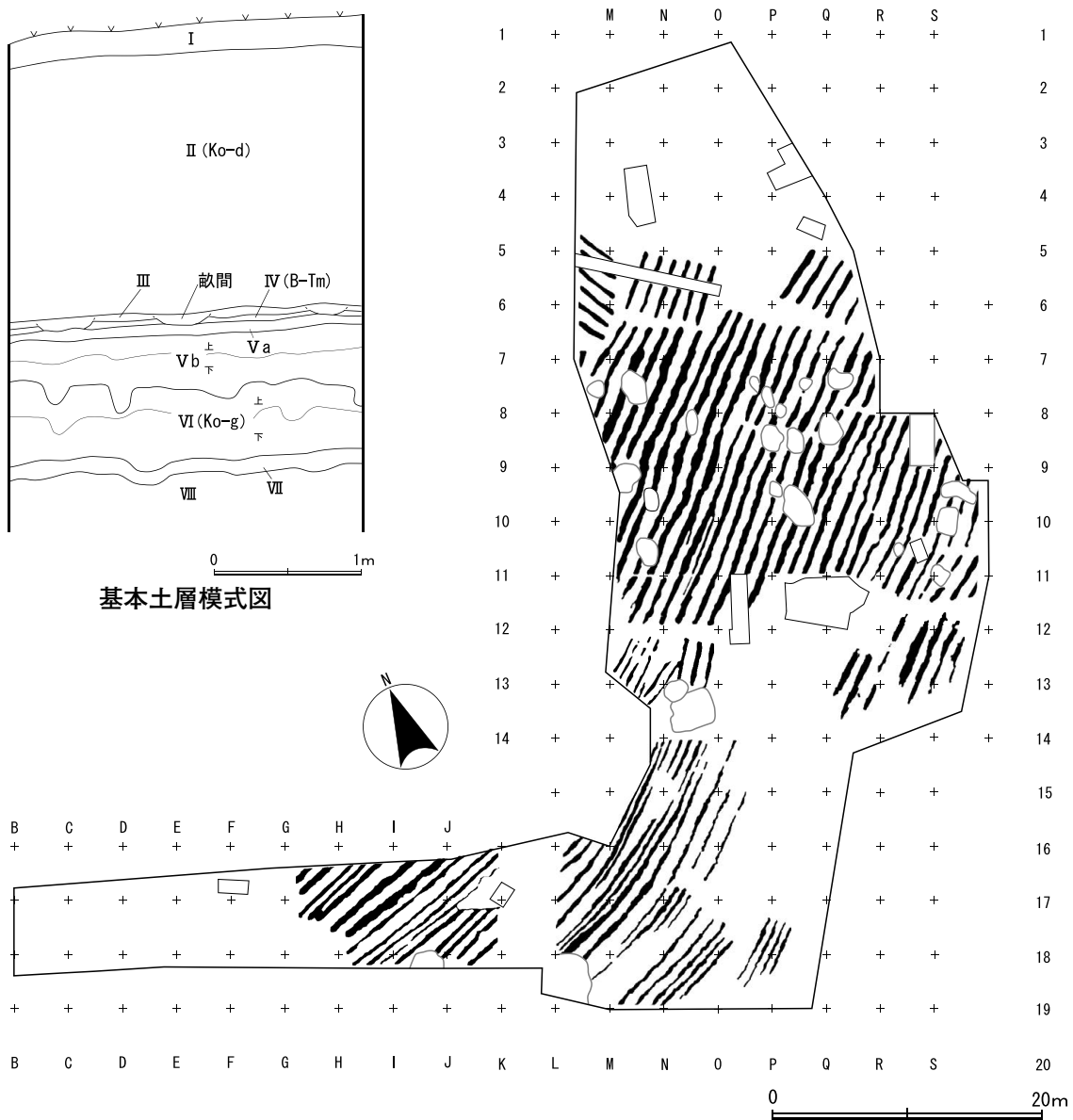
畝状遺構検出作業



畝状遺構



基本土層模式図



畝状遺構全体図

まつまえちょう ふくやまじょう かまち いせき
松前町 福山城下町遺跡

事業名：町道朝日豊岡線代行事業改良工事に関わる埋蔵文化財発掘調査

委託者：渡島総合振興局建設管理部

所在地：松前郡松前町字福山92-8ほか

調査面積：277㎡

調査期間：平成22年8月16日～12月17日

調査員：鈴木 信、菊池慈人、山中文雄

調査の経緯

北海道渡島総合振興局が計画・実施している「町道朝日豊岡線代行事業改良工事」にかかわる記録保存を目的とした発掘調査は、平成13年度～平成16年度の調査・整理(東山遺跡)については松前町教育委員会が行った。

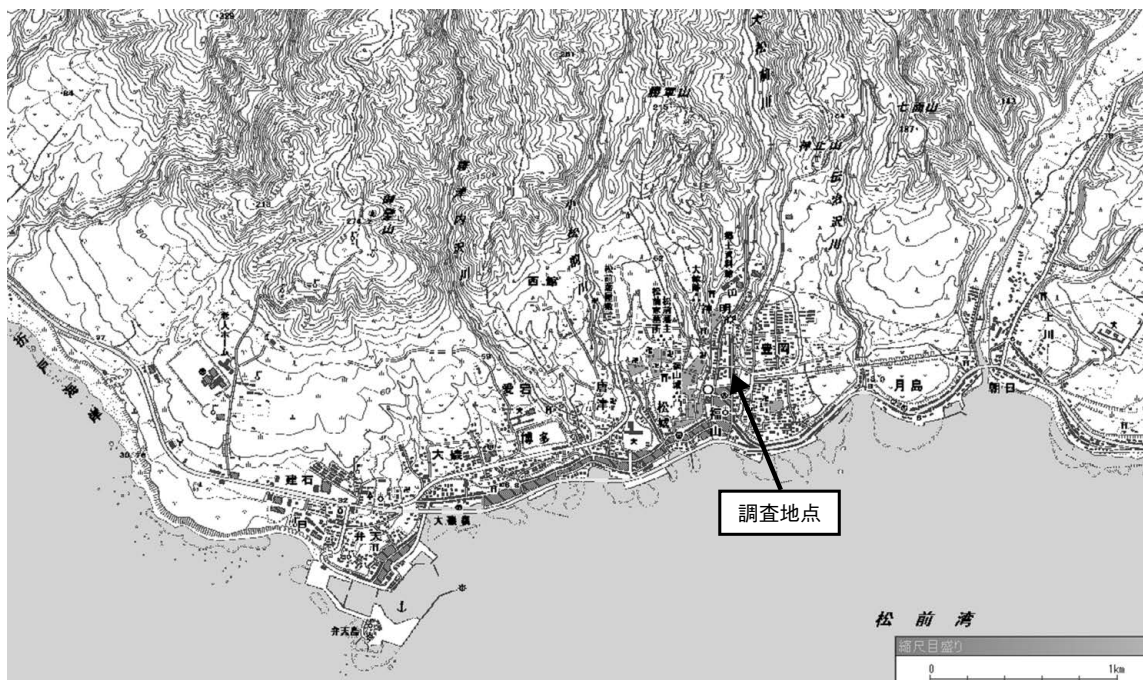
字福山の包蔵地については、平成21年5月に実施された北海道教育委員会による範囲確認調査により、やむをえない場合は記録保存を目的とした発掘調査が必要である旨、渡島総合振興局に伝えられた。渡島総合振興局は工事計画の変更が不可能と判断した。

以上の経緯から、平成22年3月に北海道教育委員会が財団法人北海道埋蔵文化財センターに福山城下町遺跡・調査面積300㎡を指示(後に270㎡に指示変更、最終面積は277㎡)、平成22年3月に財団法人北海道埋蔵文化財センターは調査実施を受託し、調査計画を立案した。平成22年7月に渡島総合振興局と契約を交わし8月～12月まで発掘調査を行った。

遺跡の位置・層序

当センター調査地点(矢印の地点)は大松前川左岸の低位河岸段丘縁にあり、海岸から上流へ約400m、福山城から東に約300mに位置する。遺跡の背後には新第三紀・福山層きょうかいかくれきがんの凝灰角礫岩を基盤とする標高20m前後の海岸段丘がある。

基本層序はⅠ～Ⅳ層・(仮称)泥炭層に分かれる。Ⅰ～Ⅳ層の土質は礫混じり粘土、泥炭層は有機質シルトに分類される。Ⅰ～Ⅳ層は段丘縁に、泥炭層は旧河道(下掲図3-Lineより左側)に堆積する。Ⅰ～Ⅲ



遺跡位置図 (国土地理院数値地図二万五千分の一「松前」を使用)



調査区遠景



調査状況



葺礎石



樽



木製品



鏡



陶磁器 (唐津)

富良野市 中五区 2 遺跡 (F-04-25)

事業名：旭川十勝道路富良野道路建設工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部

所在地：富良野市7411ほか

調査面積：2,650㎡

調査期間：平成22年5月6日～8月27日

調査員：熊谷仁志、谷島由貴、笠原 興

調査の概要

遺跡はJR富良野駅から南側に約4km離れた空知川左岸の低位河岸段丘に位置し、現況は平坦な畑地である。上流側に約700m離れて中五区3遺跡がある。遺跡は標高180mで、現在の空知川からは約200m離れている。

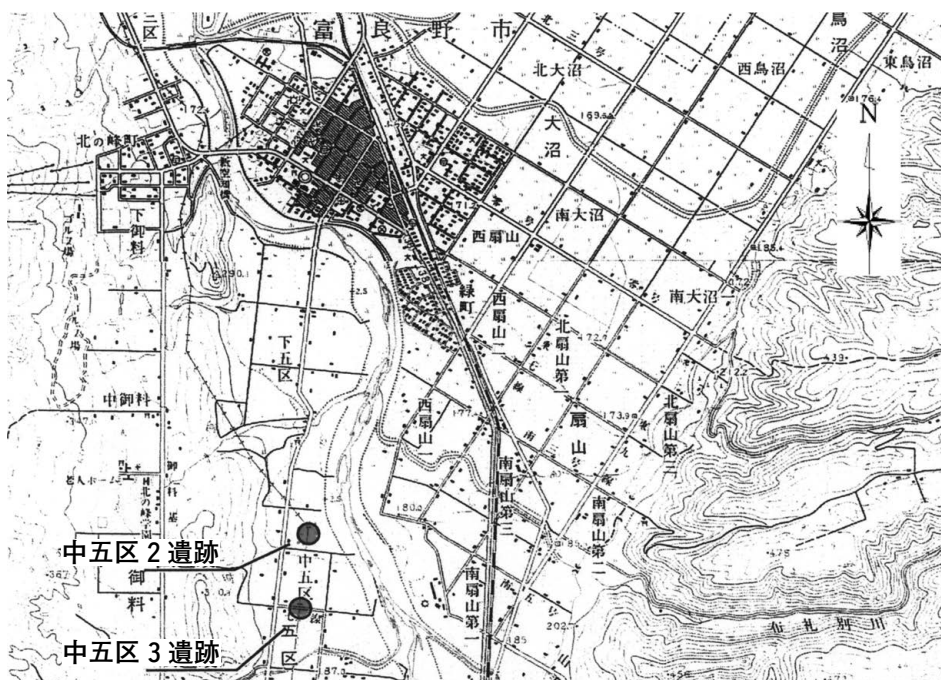
空知川は蛇行を繰り返し、1km程下流側では丘陵斜面の裾まで川が迫っていたこともあり、上流側では河跡湖があったという。当遺跡も蛇行の後と考えられる土砂の堆積がみられ、南東から北西方向に砂から15cm程の礫までを含む砂利層と黄褐色～暗褐色の粘土混じりのシルト層が带状に3列視認され、川岸跡の変遷を示している。

遺構と遺物

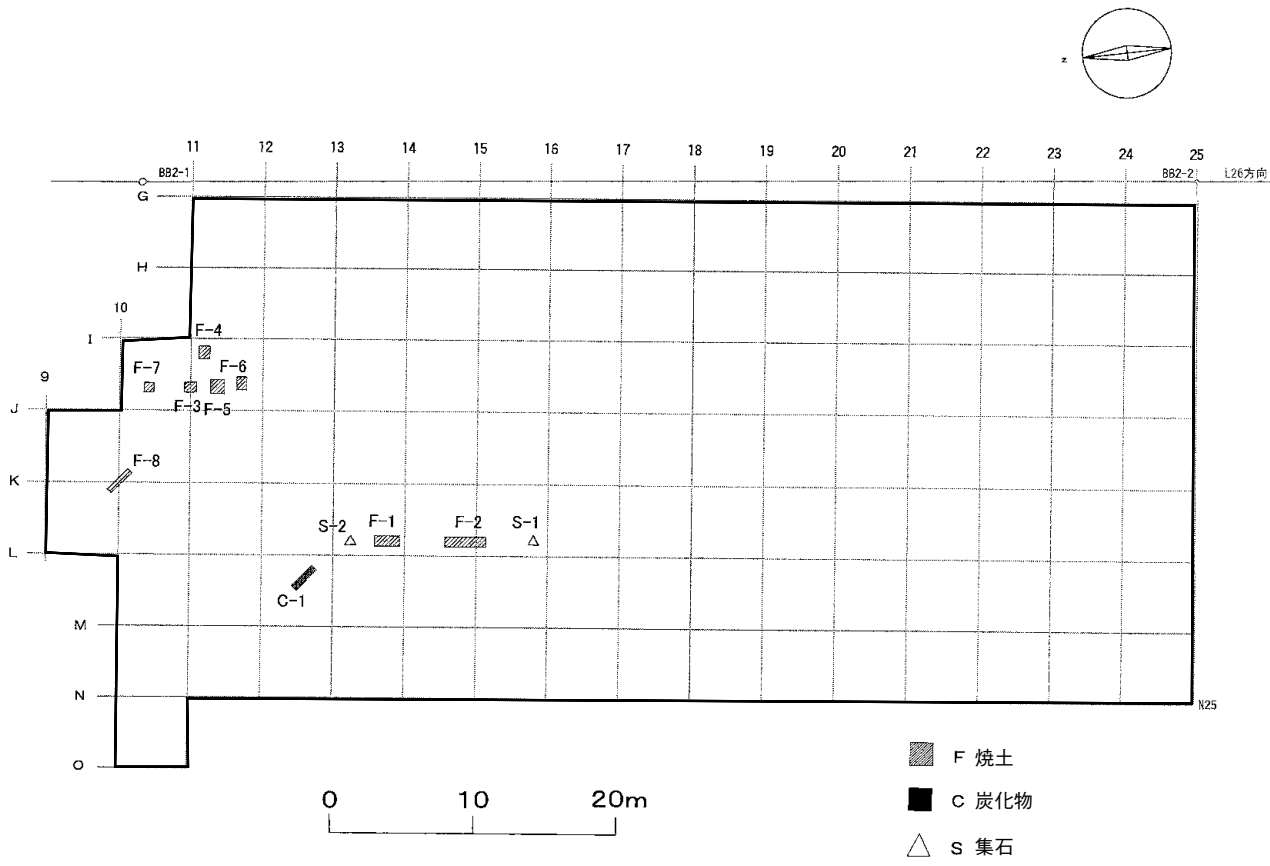
遺構・遺物は主に粘土混じりのシルト層から出土したものである。この層はG21区とL13区を結んだ線より北西側に堆積している。

遺構は縄文時代晩期の焼土8か所、集石2か所が検出されている。焼土F-1・2・8は南東から北西方向に長く伸び、空知川の流れとほぼ平行している。

遺物は約20,000点出土している。土器は縄文時代晩期のタンネトウL式が多く、わずかに後期の遺物が混じる。晩期の土器の中には、手びねりの小型の舟形土器が1個体出土している。石器の中では有茎石鏃が比較的多く出土した。



遺跡位置図



遺構位置図



遺跡全景



調査状況



縄文時代晩期小型舟形土器出土状況

富良野市 中五区 3 遺跡 (F-04-141)

事業名：旭川十勝道路富良野道路建設工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部

所在地：富良野市7439ほか

調査面積：3,907㎡

調査期間：平成22年5月6日～8月27日

調査員：熊谷仁志、谷島由貴、笠原 興

調査の概要

遺跡はJR富良野駅から南側に約4km離れた空知川左岸の低位河岸段丘上に位置する。下流方向である北側に約700m離れて中五区2遺跡がある。遺跡は標高183～184mで、現在の空知川から約1km西側に離れている。上流側に三日月湖があったが現在は埋められ畑地となっている。

縄文時代晩期主体の遺跡で、ほかに少量の後期の遺物が出土している。

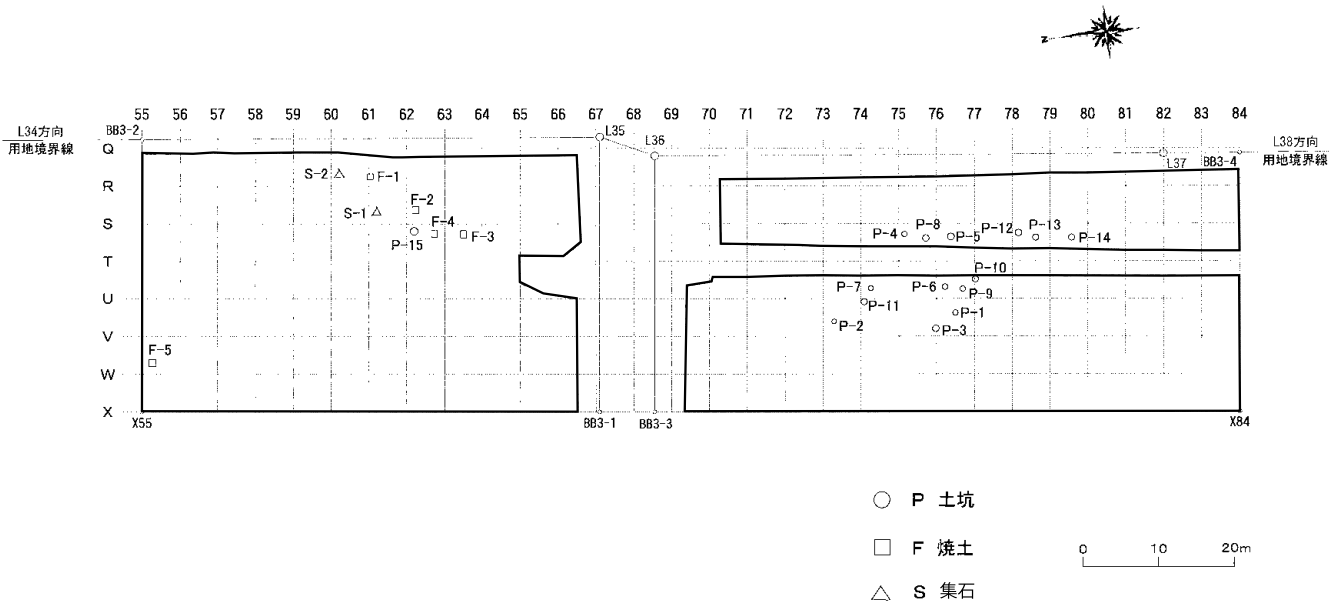
調査区は空知川の氾濫堆積物からなる。約3m掘削して、その堆積状況を確認した。結果、調査範囲内では黒～暗褐色の粘土質の土が明褐色～褐色の粘土質の土を挟み3層確認され、上位と中位の黒色土層から縄文時代晩期の遺物が出土した。主体は上位の黒色土である。また、中位の黒色土からは南半部の約100㎡という狭い範囲において少量の晩期の遺物が出土した。

遺構と遺物

遺構は縄文時代晩期のものが主体である。土坑が15基、集石が2か所、焼土が5か所検出されている。

土坑は調査区の南半部の73～80ラインに分布し、平面観が円形で直径40～80cm、深さ20～40cmの小形のもので、^{いかりいし}錨石や長径30cm程の礫が出土したもの、土器や黒曜石のフレイク・チップの多量に出土した土坑など様々である。焼土は北側において検出された。

遺物は約17,000点出土した。土器は縄文時代晩期のものが多く、わずかに後期の土器も含まれる。石器は中五区2遺跡と同様に有茎石鏃が多く出土している。





遺跡全景（北から）



土坑調査状況



土器の出土した土坑



礫の出土した土坑



礫の出土した土坑

しもかわちょう きたまち いせき
下川町 北町 J 遺跡 (F-21-69)

事業名：天塩川サンルダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部

所在地：上川郡下川町字北町1129ほか

調査面積：3,000㎡

調査期間：平成22年9月1日～10月27日

調査員：笠原 興、直江康雄

調査の概要

北町J遺跡は下川町の市街から北北東へ約5km、サンル川と無名沢が合流する丘陵斜面の縁辺部に立地する。標高は約160mで、サンル川との比高は約10mである。

サンル川に注ぐ遺跡周辺の沢では珪化岩が採取可能で、背後の丘陵の珊瑚^{さんる}から一の橋付近にかけて珪化岩の岩帯が含まれている事が知られている。そのような石材環境を反映し、本遺跡も含め下川町内の遺跡からは、珪化岩製の石器が多く出土している。

基本土層はⅠ層表土：腐植土+笹根、Ⅱ層：暗褐色～褐灰色植壤土、Ⅲ層：明褐色～橙色植壤土（漸移層）、Ⅳ層：橙色土砂礫混じり粘質土である。遺物包含層はⅡ～Ⅲ層である。

昨年に引き続き調査で、今年度は丘陵側にあたる南側3,000㎡について調査を行った。遺跡全体の出土遺物の濃淡は、昨年度の調査によって細かく確認されているため、その結果に基づき今年度は、調査区の西側を人力による調査、東側の大半は重機による確認調査を実施した。

遺構と遺物

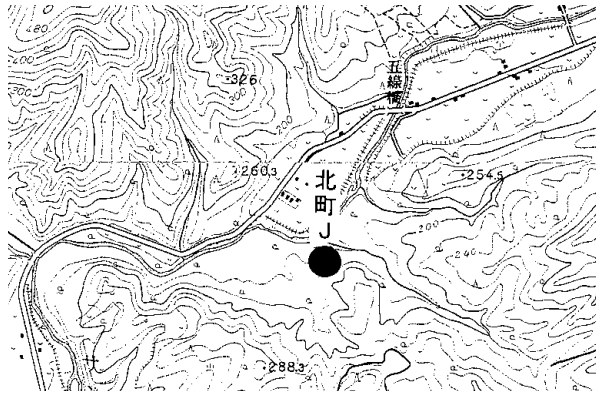
遺構は、剥片集中が7か所確認された。7か所の内の6か所はⅡ層から出土したもので、縄文時代に帰属すると考えられる。Ⅲ層から確認されたのはT8区の剥片集中で、その内1点のみだが、灰白色で良質の珪質頁岩製フレイクが出土している。昨年度検出したT7区の剥片集中からは、同様の石材を用いた細石刃核、細石刃が出土している。これらのことからT8区の剥片集中も旧石器時代に属する可能性がある。

遺物は、石器等が3,386点、土器片6点、計3,392点出土した。土器片はいずれもR7・8区の境界付近からまとまって見つかった。いずれも2cm前後の小破片で風化が著しく表面が摩滅しているが、縄文時代中期前半の押型文土器の可能性が考えられる。

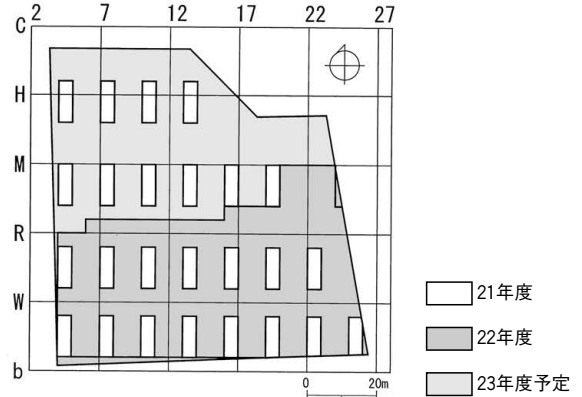
石器の器種ではフレイクが最も多く3,190点出土し、次いで石核(70点)、縦長剥片(38点)、Rフレイク(19点)と続く。その他に石槍、つまみ付きナイフ、石錐、スクレイパー、石鏃、エンドスクレイパー、細石刃様剥片、両面調整石器、敲石が出土しているが、いずれも5点以下と少量である。

石器類の石材を出土点数で見ると、珪化岩が最も多く全体の68%出土し、次いで黒曜石が23%となっており、この二種類で全体の約九割を占めている。しかし、重量で見ると珪化岩は全体の85%まで達し、逆に黒曜石は0.4%まで減少する。このことは珪化岩に大型のフレイクが多く、原産地付近に位置する石材の利用頻度の高さと形状の大きさを良く示し、対照的に黒曜石は小型のフレイク、チップが多く、石器の持ち込みとその二次加工ないし再加工を主な作業としていたと考えられる。また、原礫面の残る黒曜石の大部分には多数の痘痕状の窪みが観察でき、肉眼的に名寄産の黒曜石の特徴と一致している。

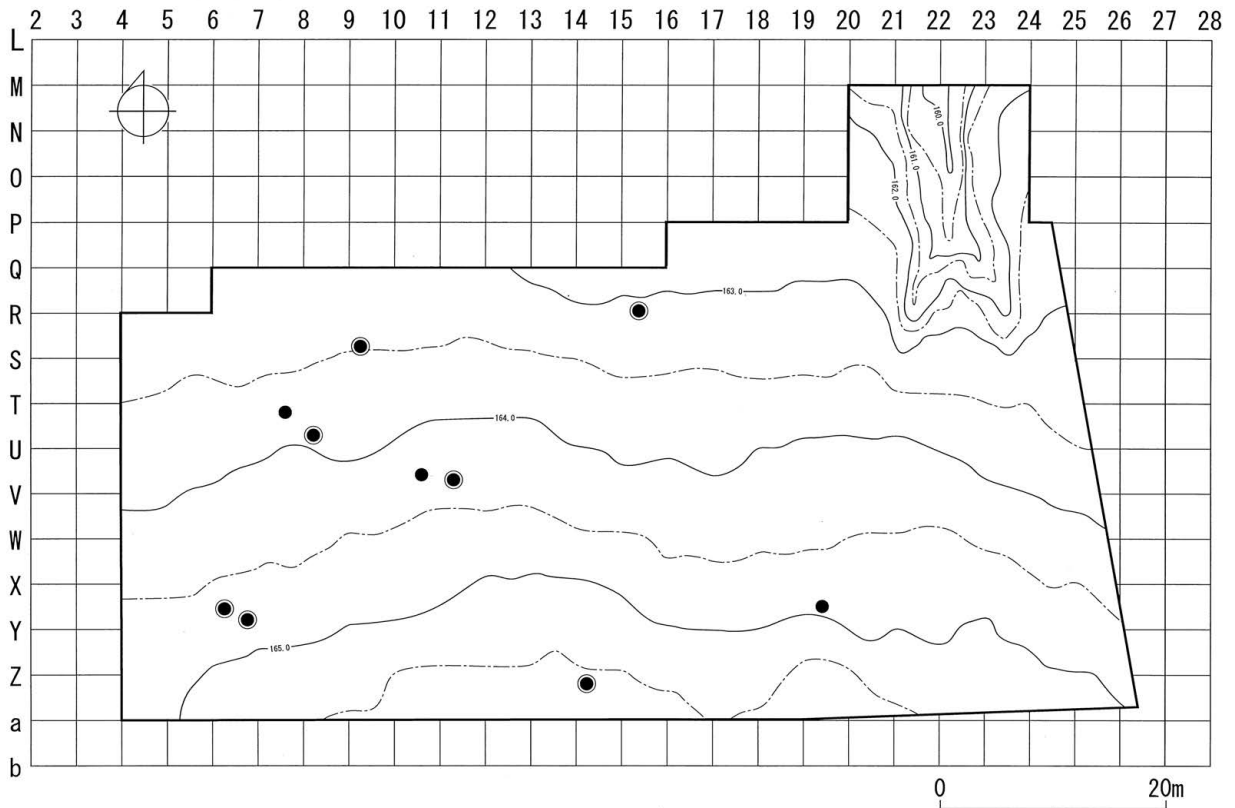
剥片集中内の石材を観察すると、R9・U11・X6区の剥片集中で黒曜石が多く見られ、R15区の剥片集中では碧玉が多く出土している。碧玉は、黄褐色を主体として赤褐色及び濃緑色の部分が層状に見られるもので、珪化した部分も見られる。珪化岩に連続的に変化するような特徴を持つことから、西興部村産のものではなく周辺で産出した原石と考えられる。



遺跡位置図 (国土地理院5万分の1地形図「下川」・「サンル」使用)



年度別調査範囲図



IV層上面の地形と剥片集中の範囲 (●が今年度検出)



調査区全景 (東から)



Q・R15区剥片集中出土状況 (南東から)

事業名：旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

整理期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日

調査員：坂本尚史、直江康雄

整理の概要

今年度はホロカ沢Ⅰ・旧白滝3・旧白滝5（平成18・19年度調査分）・旧白滝15遺跡の二次整理を行った。各遺跡の作業内容は、報告書作成の順番によって異なり、今年度報告のホロカ沢Ⅰ遺跡は『白滝遺跡群Ⅺ』の編集作業と刊行、平成23年度報告予定の旧白滝15遺跡は図化・データ処理作業と図版作成作業を行い、平成24年度以降に報告を予定している旧白滝3・旧白滝5（平成18・19年度調査分）遺跡は接合作業、及び図化・データ処理作業を行った。

ここでは旧白滝15遺跡で出土したホロカ型彫器を含む石器群について説明する。旧白滝15遺跡は、黒曜石の原石山である赤石山から流れ出る幌加湧別川と湧別川の合流点から約2km下流に位置する。調査面積は4,670㎡で、115,975点（点取り遺物35,549点）の石器類が出土した。出土した主な石器群として、大型打面調整を施す石刃（川西C遺跡類似）石器群、蘭越型細石刃核を含む石器群、峠下型細石刃核を含む石器群、ホロカ型彫器を含む石器群、有舌尖頭器を含む石器群が確認されている。

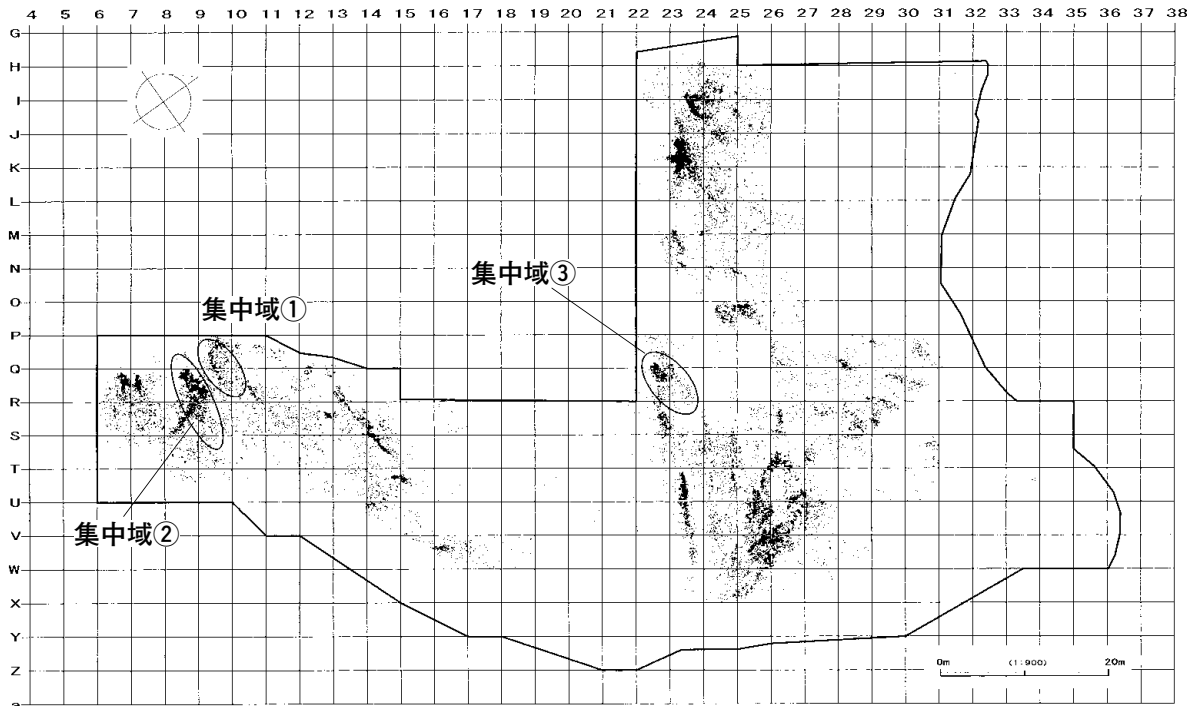
ホロカ型彫器を含む石器群は、大きく3か所の集中域が検出されている。集中域①と②は隣接し、それぞれの周辺10m程の範囲に接合遺物が散在している。また、周囲には峠下型細石刃核を含む石器群の集中域（Q6区）や有舌尖頭器を含む石器群の集中域（Q7区）が存在し、ホロカ型彫器を含む石器群を含め、各々の範囲が重複する出土状況となっている。この他に集中域①・②から50m程東側に、集中域③が検出されている。集中域間の接合関係は①・②間のみで確認されている。

この石器群に見られる特徴的な石器として、ホロカ型彫器、大小の舟底形石器、背面全体を覆い尽くす平坦加工の施される削器、背面中央に長軸方向に沿った擦痕の付着した石刃がある。また共伴関係は不確定だが、集中域②からは忍路子型細石刃核を含む母岩別資料が1個体出土している。

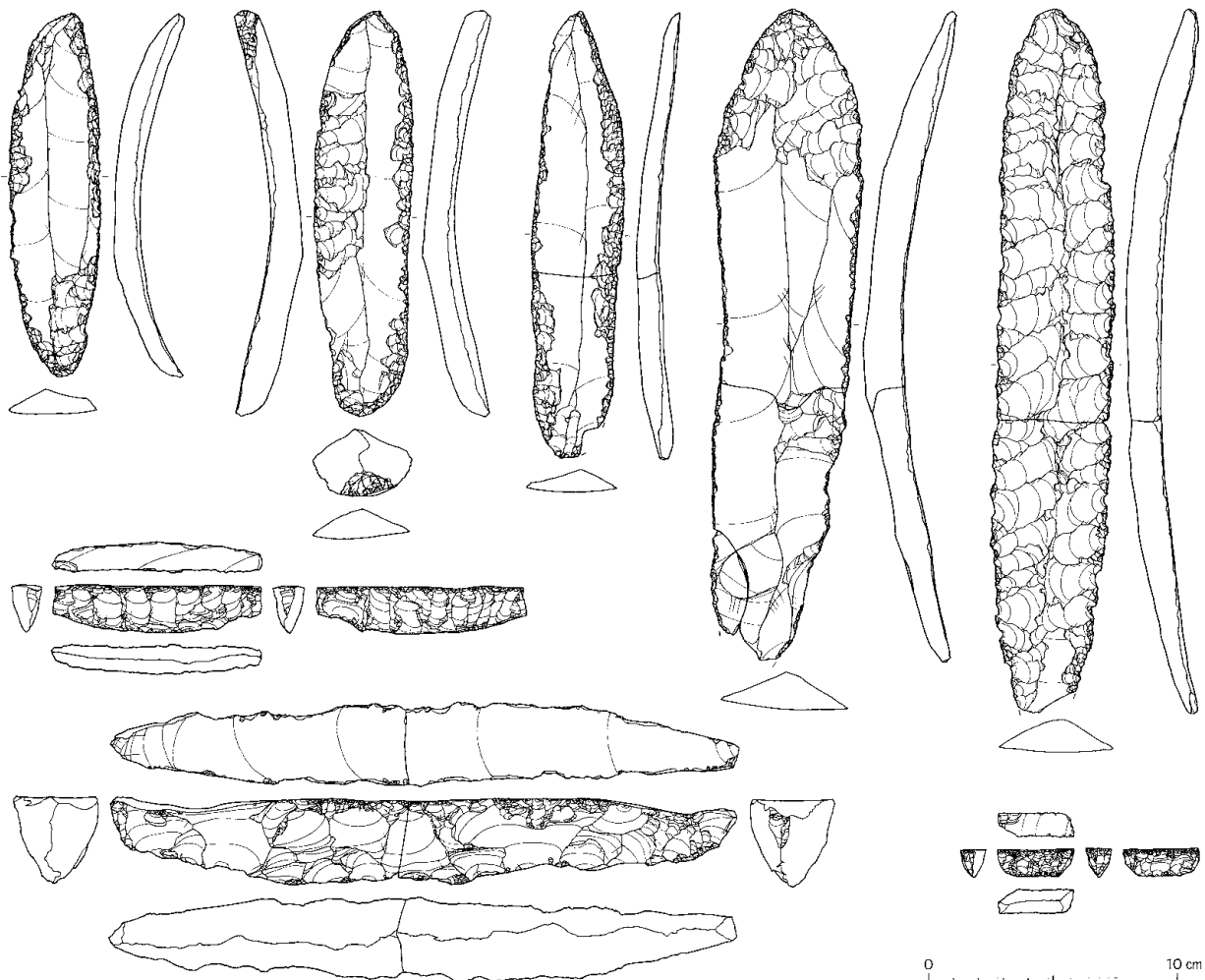
集中域①・②と③では主な利用石材と作業内容が異なる。集中域①・②では黒曜石4（黒く茶色）の角礫を素材とした石刃核ブランクの搬入と石刃・舟底形石器の製作が主に行われ、特に舟底形石器は集中域②で多く製作されている。集中域③では黒曜石1（黒）の転礫を素材とした石刃核ブランクの搬入と石刃製作が行われている。

図示した母岩38・接合103は、集中域①・②から出土した接合資料で、長さ55cm、幅14cm、厚さ16cmを測る。石刃核ブランクの状態での搬入されており、その技術的な特徴は、裏面を両側からの加工により平坦化させ、正面で稜形成を行い、両側面では裏面からの石核調整が施され、断面が厚手の三角形に整形されている。

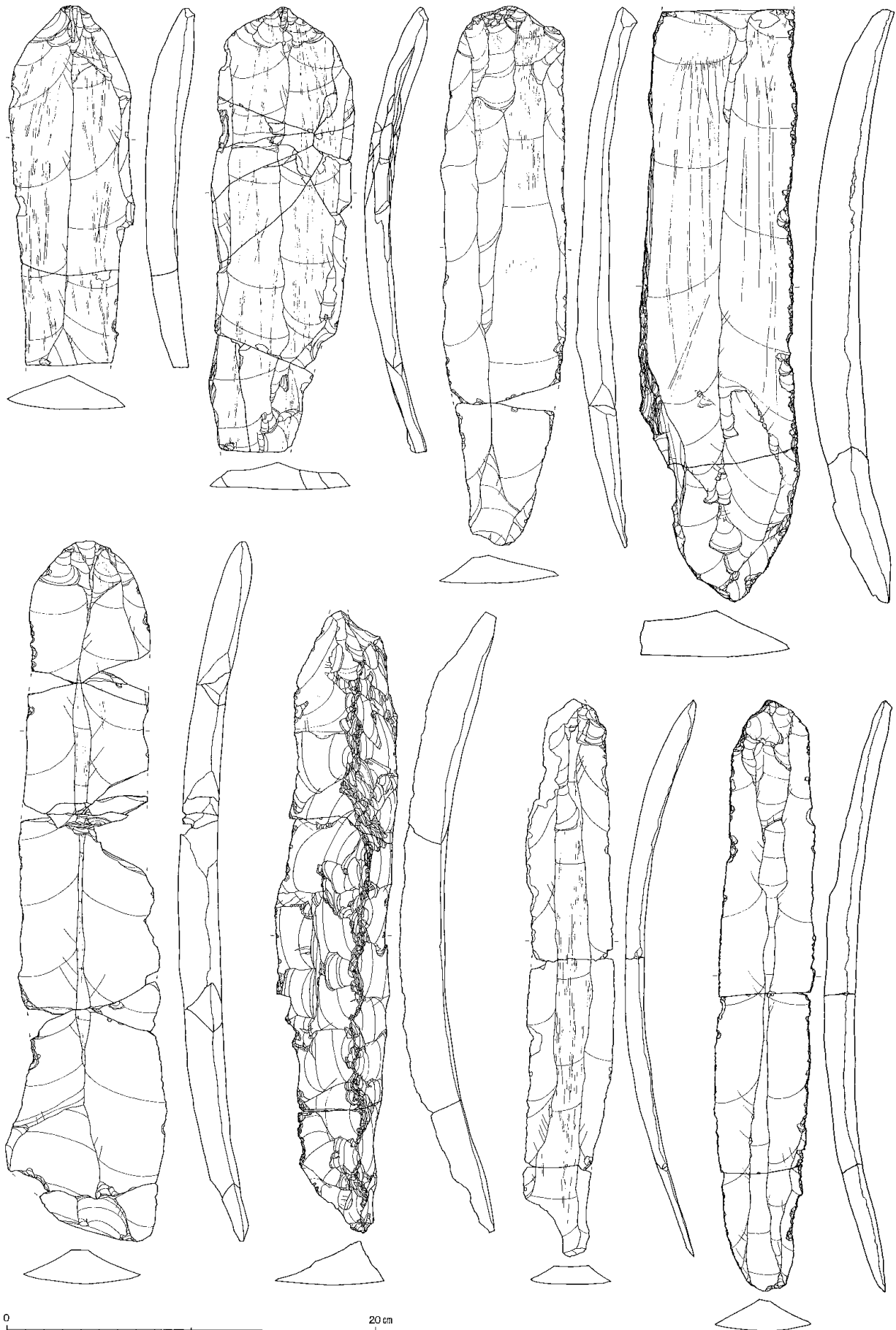
石刃剥離は、打面調整と頭部調整及び打面再生を頻繁に施しながら行われ、初期段階では約35cmの石刃が連続的に剥離されている。打面調整は打点の両側に打点を山形に突出させるよう施されている。頭部調整は打面縁辺のガラス光沢が消失するほど入念に研磨されるものがある。また、一部の剥離作業面には二種類の擦痕が確認できる。いずれも石核の長軸と同方向で、一つは打面部周辺の強い擦痕、もう一つは上半部から中央部に多く見られる弱い擦痕である。前者は頭部調整に伴うガラス光沢の消失部と連続しており、頭部調整が石刃作業面にまで及んだ結果残されたものと考えられる。後者の付着した理由は不確定である。製作工程上以外の理由（技術伝承など）も考慮する必要があると考えている。また、作業面の側面観が弓形に湾曲する形状であるため、石刃は湾曲度が大きく石核末端まで達することがな



旧白滝15遺跡の遺物分布図とホロカ型彫器を含む石器群の集中域



旧白滝15遺跡出土のホロカ型彫器を含む石器群(1)

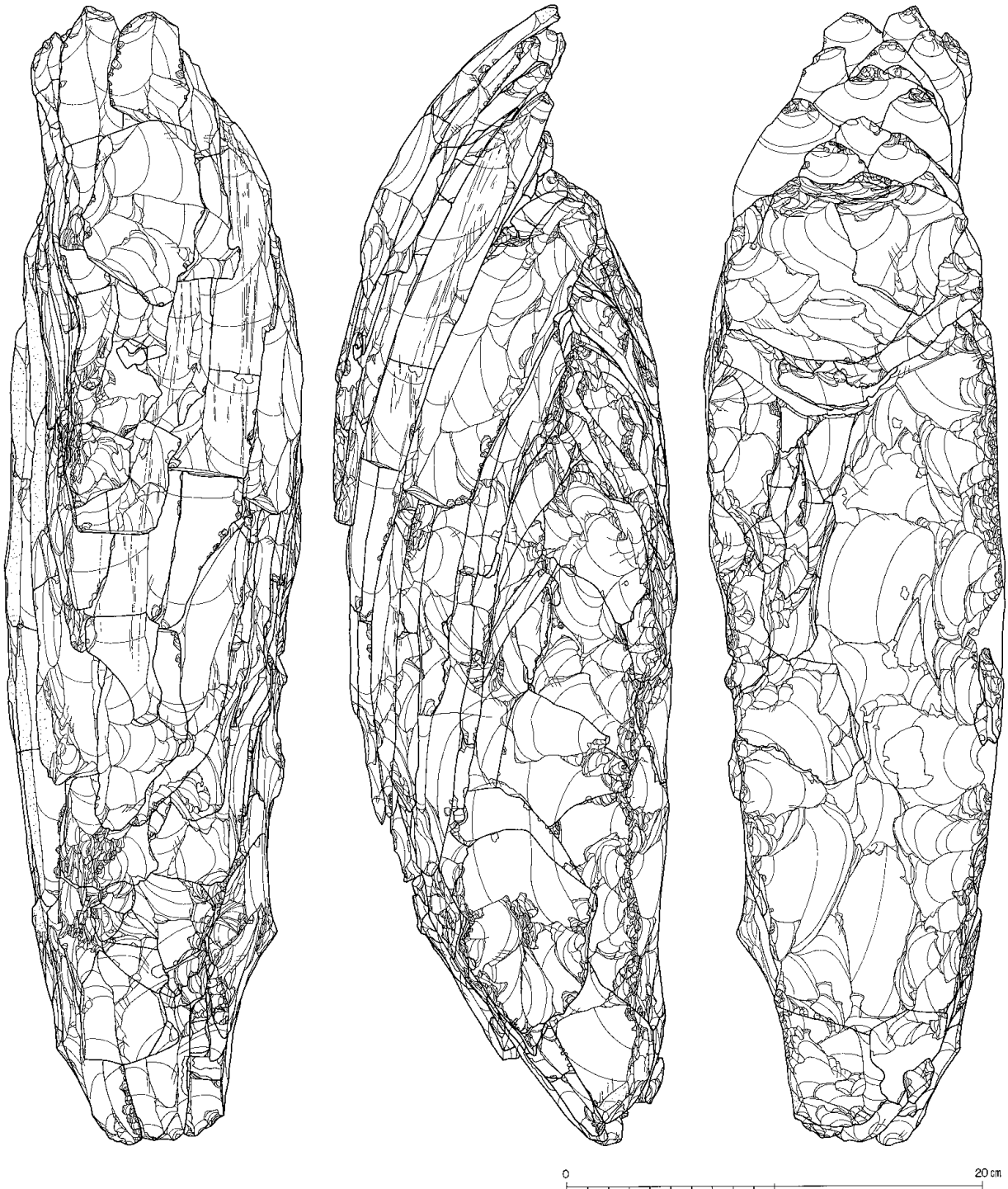


旧白滝15遺跡出土のホロカ型彫器を含む石器群(2)

い。そのため両設打面とし、下設の打面からの剥離によって作業面形状を修正している。接合した石刃・縦長剥片は34個体で、接合資料中に搬出を示す空隙部がほとんど見られない。一部の石刃は彫器に加工され、残核の長さは34cmである。

本石器群の石刃は、白滝遺跡群の中でも極めて大型で、擦痕の付着などが特徴である。類例については、道内で断片的にしか確認されていないため、これまで時期的な位置付けも含めて不明瞭な点が多い。今後の旧白滝15遺跡の整理作業により、石器組成や技術的な特徴など石器群の全体像が明らかに出来る可能性が高い。

母岩38・接合103



旧白滝15遺跡出土のホロカ型彫器を含む石器群(3)

ねむろし 根室市 トーサムポロ湖^{こしゅうへんたてあなぐん}周辺^{のさっぽろ}竪穴群 (N-01-1)

事業名：根室半島線(B交-408)交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道釧路総合振興局(釧路建設管理部)

所在地：根室市豊里43-3、44-2、131-1

調査面積：1,500㎡(調査終了931㎡、次年度以降繰り延べ569㎡)

調査期間：平成22年8月12日～10月28日

調査員：三浦正人、越田雅司、広田良成

調査の概要

遺跡は根室半島突端の納沙布岬から西に5km程、オホーツク海に面するトーサムポロ湖周辺に位置する竪穴群である。トーサムポロ湖は北側に湖口がある周囲延長3.3kmの汽水湖で、周囲の標高約5～30mの台地には縄文時代早期からオホーツク文化期、擦文文化期の竪穴が2,000か所以上存在するとみられる。本遺跡は古くから知られており、昭和39年以降北構保男氏、東京教育大学(現筑波大学)、北地文化研究会などにより竪穴分布調査や縄文時代前期・縄文時代晩期・オホーツク文化期の竪穴住居跡などの発掘調査が行われている。

今年度の調査区はトーサムポロ湖口に東西から突き出た半島状の段丘上に立地し、西岸部分のA地区と東岸部分のB地区の2か所に分かれている。調査区の形状はA・B地区共に道路の改良工事に伴う調査のため、長さに比べて幅の狭い細長い形状になっており、全面調査できた遺構は少ない。A地区の標高は約10～12mでほぼ平坦な地形である。B地区は昨年度からの継続調査で、標高約14m～19mで高位と低位の平坦面とその間の緩斜面からなる地形である。

なお、今年度の調査はB地区及びA地区西側部分については調査を終了したが、A地区東側部分はほぼⅢ層上面までの調査を行い、遺構の一部は検出のみに留めた。これらの未調査部分と段丘の東側に続く要発掘調査地区については、来年度以降調査を行う予定である。

基本層序は0層：表土、Ⅰ層：黒色土、Ⅱ層：灰白色火山灰を含む黒褐色土、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：摩周テフラ(Ma-gもしくはiとj)、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：黄褐色ロームである。Ⅱ層の灰白色火山灰は上下2枚に分かれ、上位は樽前a降下火山灰(1739年降下)、下位は駒ヶ岳c₂降下火山灰(1694年降下)とみられる。遺構・遺物はA地区ではⅠ・Ⅲ・Ⅴ層、B地区ではⅢ層から検出している。

遺構と遺物

[A地区]Ⅰ層で検出した遺構は貝塚15か所(SM-1～15)、建物跡3棟(H-1～3)、柱穴・杭穴291基、灰集中9か所(A-1～4、6～10)、焼土2か所(F-2・3)である。その内、貝塚3か所(SM-13～15)、焼土2か所(F-2・3)は来年度の調査となる。遺構の時期は、Ⅱ層の樽前a降下火山灰と推定される灰白色火山灰より上位で検出されているため、18世紀中葉以降の近世アイヌ文化期と考えられる。

アイヌ文化期の遺構は、調査区南西端周辺を除きほぼ全体に広がっており、建物跡・貝塚・柱穴群・灰集中が近接して検出されている。建物跡は調査区中央付近から南西部にかけて分布している。全て掘り込みがなく柱穴で構成される平地式の建物跡である。ほぼ全体の調査を行った建物跡1棟(H-3)は平面形が正方形に近く、規模は約5.4×5.2mを測る平地住居跡である。長軸の中央付近で灰を伴う炉跡を2か所検出している。貝塚は調査区中央付近の分布が密で、平面の規模は4m前後が多いが、1m程度のものから7mを越えるものまで様々である。貝層の厚さは10cm前後が一般的で、最も厚いものは約20cmを測る。灰集中は調査区内に点在して分布する。ただし、調査区南西部に位置する4か所(A-1～4)は近接しており、周辺から鉄製品などの遺物が多く出土した点や、北東側に広がる杭穴群の分布などから、この周辺が「物送り場」として使われた可能性が考えられる。柱穴・杭穴は建物跡・貝塚・灰集中

などの遺構が多い区域に分布が重なる。これらの中には建物跡や柵列、幣場跡ぬさばあととして検討を要するものも含まれる。

アイヌ文化期における本遺跡は、平地住居跡を含む建物跡・貝塚・「物送り場」などで構成される近世アイヌ文化期の集落跡と言える。道東地域ではアイヌ文化期のチャシや貝塚等の調査例はあるものの、集落跡とされている遺跡は稀少である。本遺跡は道東地域でのアイヌ文化期を考える上で重要な調査例となる。

Ⅲ層で検出した遺構は黒曜石製のフレイク集中1か所である。また、調査区北東側で昭和51・52年に北地文化研究会が調査したオホーツク文化期の竪穴住居跡2軒の調査地点を検出した。Ⅴ層で検出した遺構は、竪穴住居跡2軒(LH-1・2)で、時期は縄文時代早期である。これらのならびに竪穴住居跡と考えられる窪みを検出したが、調査は来年度以降に繰り延べた。

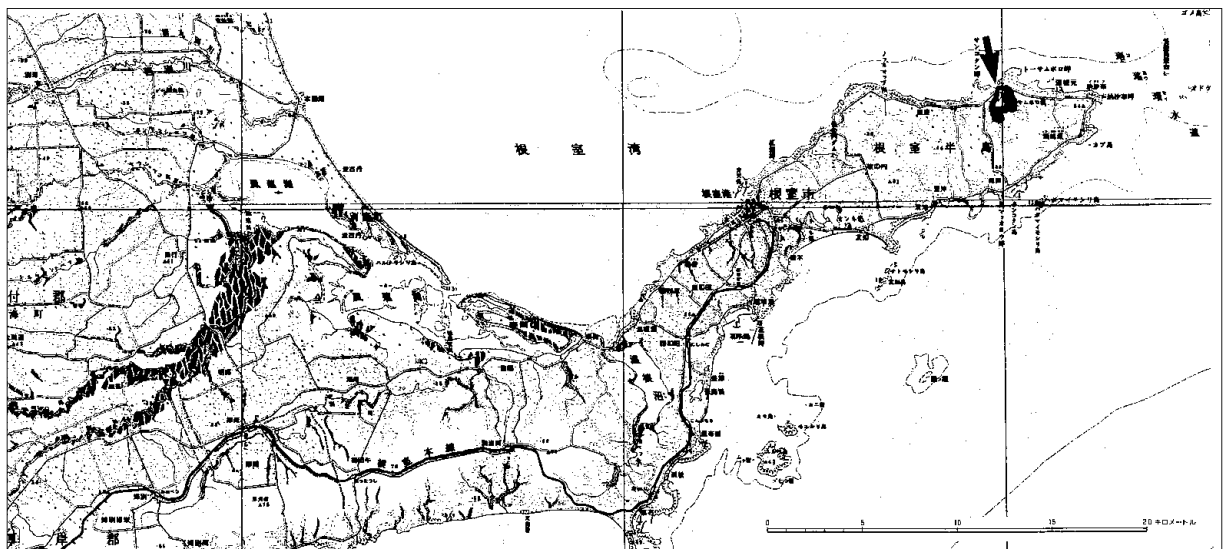
遺物は土器が約6,800点、石器等が約4,700点、金属製品128点、骨角器約40点が出土した。また貝塚に伴い、貝殻などの自然遺物が大量に出土している。

Ⅰ層の遺物は主にアイヌ文化期のものが主体で、石器等ではめのう製の火打石、軽石製品、おもりのし 錘石と考えられる棒状礫など、金属製品では斧・タガネ状工具・マレク・釣針ひうちがね・火打金・釘・銅板加工品などがある。骨角器はもりがしら 銚頭・なかえ 中柄・針入れなどが貝塚から出土した。自然遺物は、貝殻ではアサリが主体で他にオオノガイ・ボラ(ツブ)・ウバガイ(ホッキ)・ホタテガイ・タマキビ類など、獣骨ではシカなどの陸獣骨やクジラ・トド・アシカなどの海獣骨、魚骨ではカレイ・タラ・カジカ類などで、他に鳥骨、ウニ殻などがある。

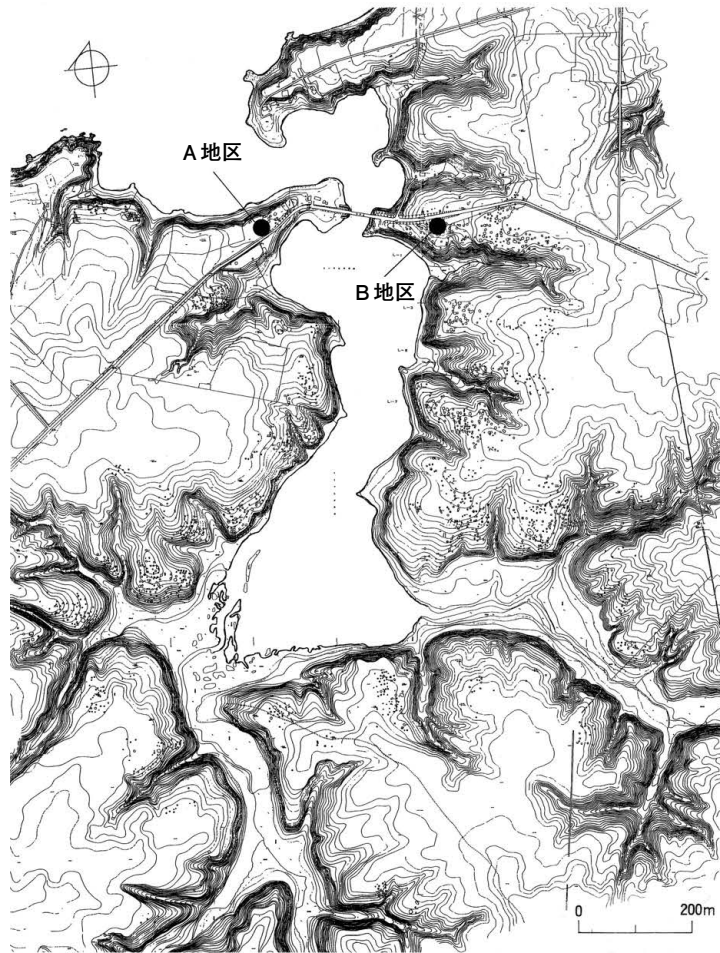
Ⅲ層の遺物は、土器では縄文時代前期～晩期、オホーツク式土器・擦文土器が出土し、この中では縄文時代晩期及びオホーツク式土器が主体である。石器等は黒曜石製のフレイクが多く、石鏃などの製品は少量である。Ⅴ層の遺物は、土器では縄文時代早期前半の条痕文土器が、石器等では石刃鏃などの石刃鏃石器群などが出土している。

[B地区] 今年度の調査区は昨年度調査区に隣接する道路法面側の部分である。調査した遺構は竪穴住居跡5軒(H-2・4・6～8)、土坑4基(P-2～4・8)で、土坑1基(P-8)を除き昨年度からの継続調査である。時期はいずれも縄文時代前期と考えられる。

遺物は土器が約400点、石器等が約5,500点出土した。土器はほとんどが縄文時代前期の押型文尖底土器である。石器は黒曜石製のフレイクが多く、他に石鏃・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー・砥石いしのこ・石鋸などがある。

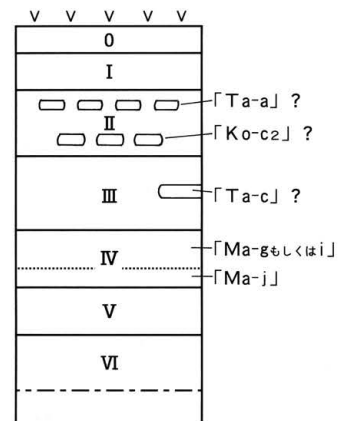


遺跡位置図 (国土地理院20万分の1地形図「標津」「根室」を使用)



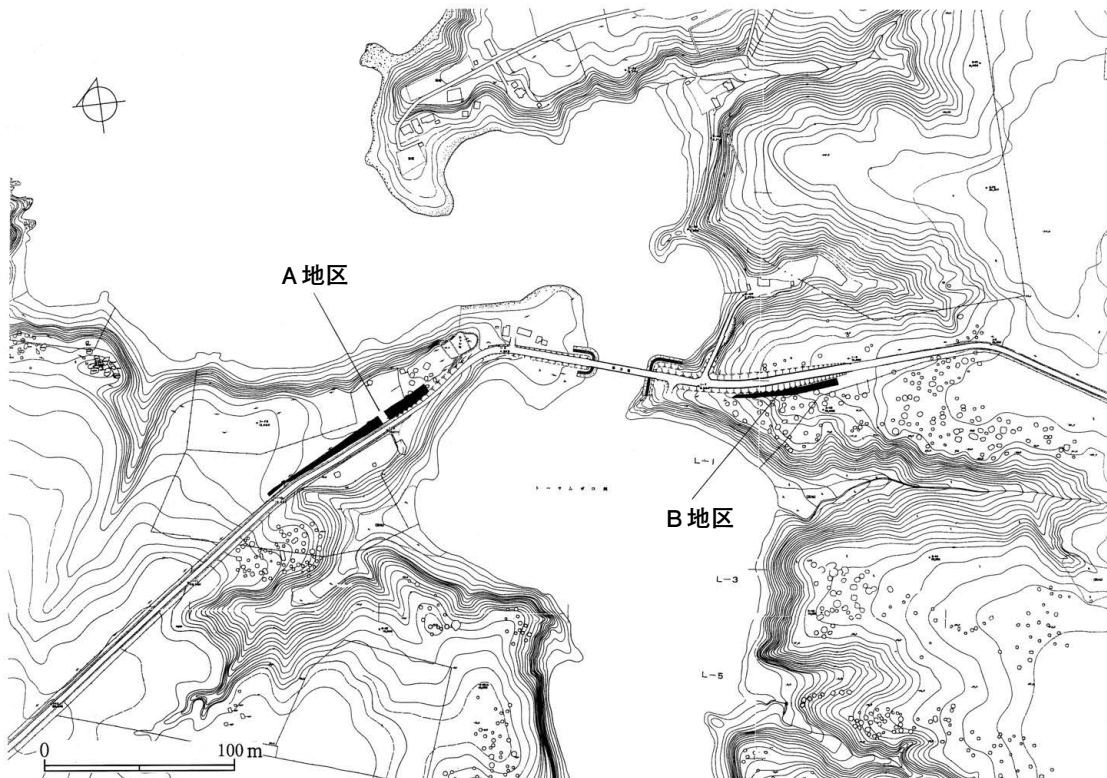
遺跡周辺の地形

(この図は筑波大学先史学・考古学研究室調査報告Ⅰ「北海道東部地区の遺跡研究」の付図に加筆したものである)



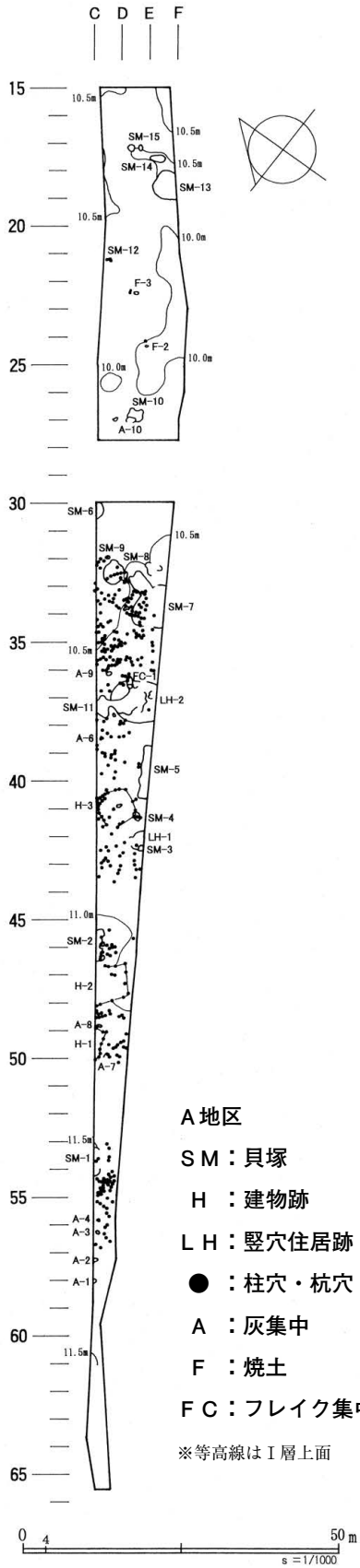
基本層序模式図

- 0層：表土
- I層：黒色土（アイヌ文化期）
- II層：灰白色火山灰を含む黒褐色土
 上位「Ta-a」（樽前山起源の降下火山灰：1739年降下）？
 下位「Ko-c2」（駒ヶ岳起源の降下火山灰：1694年降下）？
- III層：黒色土（縄文時代前期～擦文文化期）
 ※III層中に「Ta-c」（樽前山起源の降下火山灰）？が部分的に含まれる
- IV層：摩周テフラ（約7,000年前降下）
 上位「Ma-gもしくはi」（摩周カルデラ起源の降下軽石）
 下位「Ma-j」（摩周カルデラ起源の降下火山灰）
- V層：黒色土（縄文時代早期）
- VI層：黄褐色ローム層

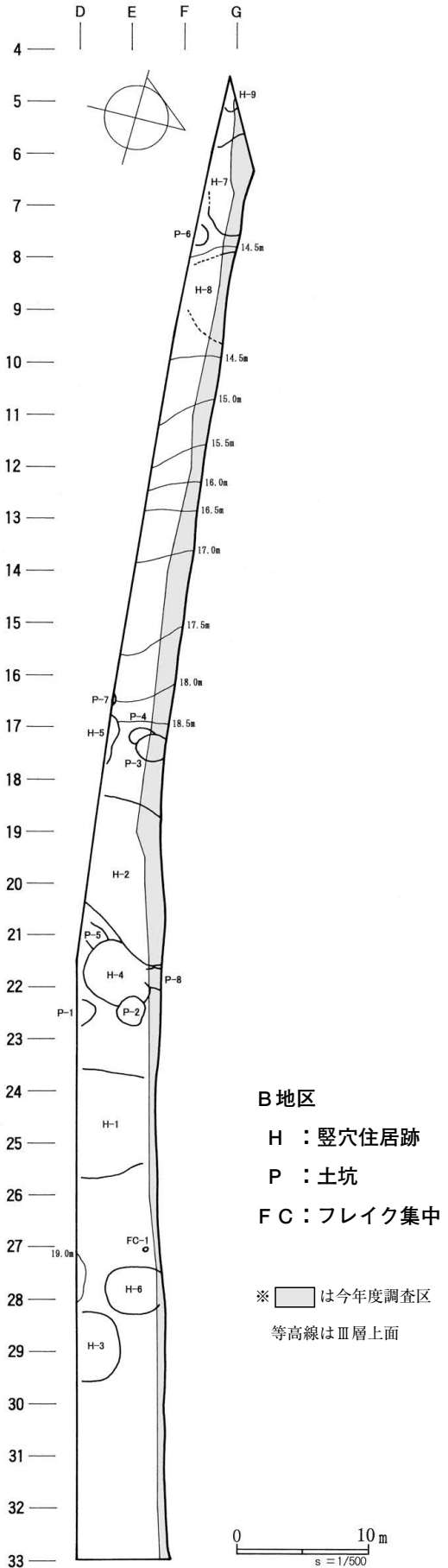


調査範囲図

(この図は筑波大学先史学・考古学研究室調査報告Ⅰ「北海道東部地区の遺跡研究」の付図に加筆したものである)



A 地区遺構位置図



B 地区遺構位置図



A 地区遠景



A 地区調査状況



アイヌ文化期平地住居跡（H-3）



アイヌ文化期貝塚（SM-7～9）



貝塚(SM-9)



貝塚(SM-7)



SM-10銚頭出土状況



SM-7中柄出土状況



SM-7針入れ出土状況



縄文時代早期竪穴住居跡 (LH-2)



LH-1 遺物出土状況



LH-2 土層断面



LH-1 床面深鉢出土状況



V層石刃鏃出土状況

つる いむらしもほろろ いせき
鶴居村下幌呂1遺跡 (M-8-16)

事業名：釧路弟子屈線(新交-61)交付金工事(幌呂原野地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道釧路総合振興局

所在地：阿寒郡鶴居村字幌呂原野基線29-2

整理期間：平成22年8月1日～平成23年3月31日

調査員：阿部明義

調査の概要

下幌呂1遺跡は鶴居市街地の約8km南、釧路湿原北西縁辺部に位置し、湿原に注ぎ込む幌呂川右岸の標高約14mの河岸段丘上に立地する。道道釧路鶴居弟子屈線の改良工事に伴い、平成19年に610㎡、平成21年に1,590㎡を調査した。縄文時代早期・中期・後期の集落遺跡であり、遺構は盛土遺構1か所・住居跡38軒・土坑88基(墓含む)・柱穴状小ピット17基・焼土32か所・フレイクチップ集中6か所・礫集中5か所が検出された。主体時期の縄文中期末～後期初頭では、20軒以上の住居跡が検出された。竪穴住居跡のほか、壁が不明瞭でわずかにくぼみのある「平地住居跡」が4軒ある。炭化材や屋根の葺き土と推測される黄色土が残っており、うち1軒ではやや細い垂木と横木が組み合わされた炭化材がほぼ全周から検出された。

遺物は土器等約2万8千点・石器等約5万2千点、計約8万点が出土した。特筆すべき遺物としては、縄文時代の住居跡から出土した四脚付浅鉢土器、小型注口土器、漆塗りの櫛などがある。

整理の概要

今年度は、土器の接合・復元、石器の実測、微細遺物選別を主体として整理作業を行っている。

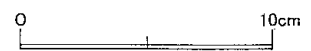
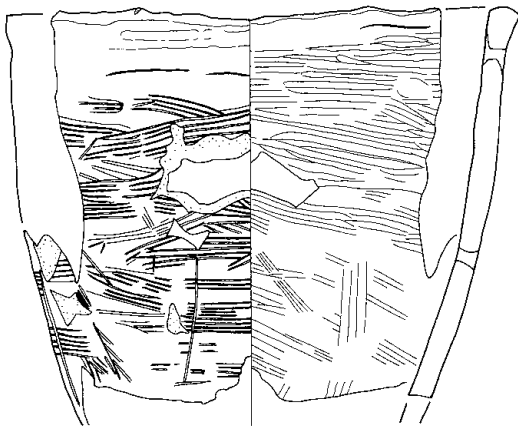
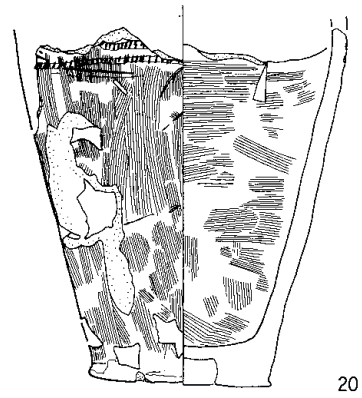
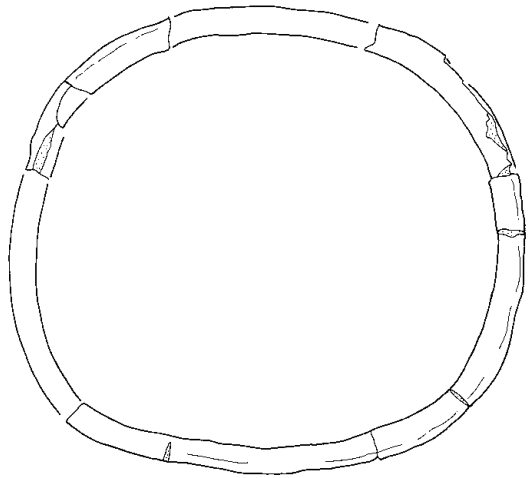
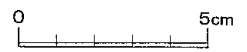
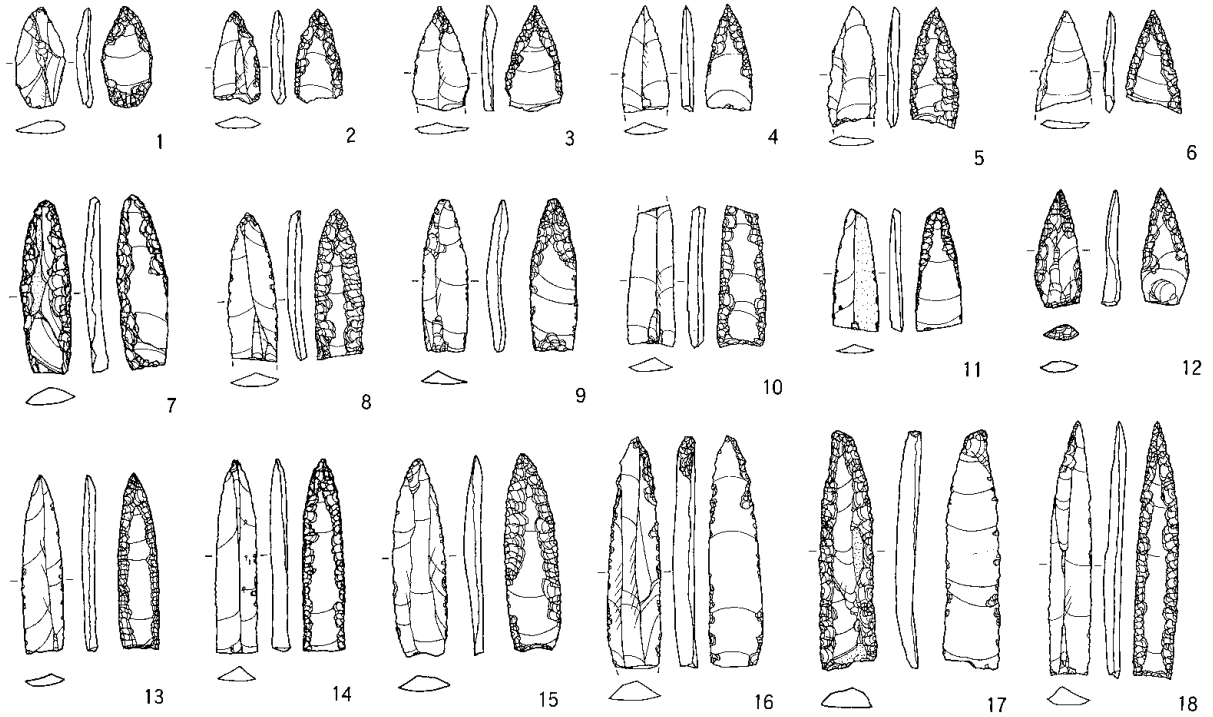
土器については、接合・復元・実測・トレース作業を進めている。土器復元個体は35～40個程度になる見込みで、浦幌式・東釧路Ⅱ式・東釧路Ⅲ式・中茶路式・北筒Ⅱ式・北筒Ⅲ式・鮭淵式・堂林式がある。石器については約450点の図化を予定しており、昨年度までに140点が実測・トレース済みで、今年度も順次作業を行っている。

調査区北部では、石刃および石刃素材の石器群がややまとまった範囲から出土し、周辺から浦幌式や東釧路Ⅱ式土器が出土している。これらの遺物のうち、主な石刃鎌と復元された浦幌式土器を右図に掲載した。なお石刃および石刃素材の石器群について接合作業を行っており、石器製作技術や石材消費形態に関する情報が得られることが期待される。

フローテーション法による微細遺物選別作業では、各住居跡の炉や覆土の試料から多量の炭化物が回収され、堅果や種子とみられる粒子が少量含まれている。

これらの作業に加え、自然化学的分析等を委託している。黒曜石製遺物の原産地分析では、所山・置戸山・十勝・美蔓・赤石山産といった道東産地のほか、道央赤井川産(縄文後期中葉の竪穴住居跡出土遺物)が含まれているという結果であった。石刃鎌に限れば、所山産がほとんどである。炭化材樹種同定では、縄文中期末～後期の竪穴住居跡および平地住居跡出土の材はコナラ属が大部分で、縄文後期中葉の竪穴住居跡出土のやや太い材はトネリコ属が多いという結果が得られており、いずれも遺跡周辺で伐採可能であったとみられる材が用いられているようである。放射性炭素年代測定では、遺構の形成過程を検討する上で良好なデータが得られた(後述)。

このほか遺構図面作成、遺物写真撮影、編集作業、原稿執筆等を行っており、報告書の刊行は平成23年度を予定している。



石刃鏃と浦幌式土器

※放射性炭素年代測定

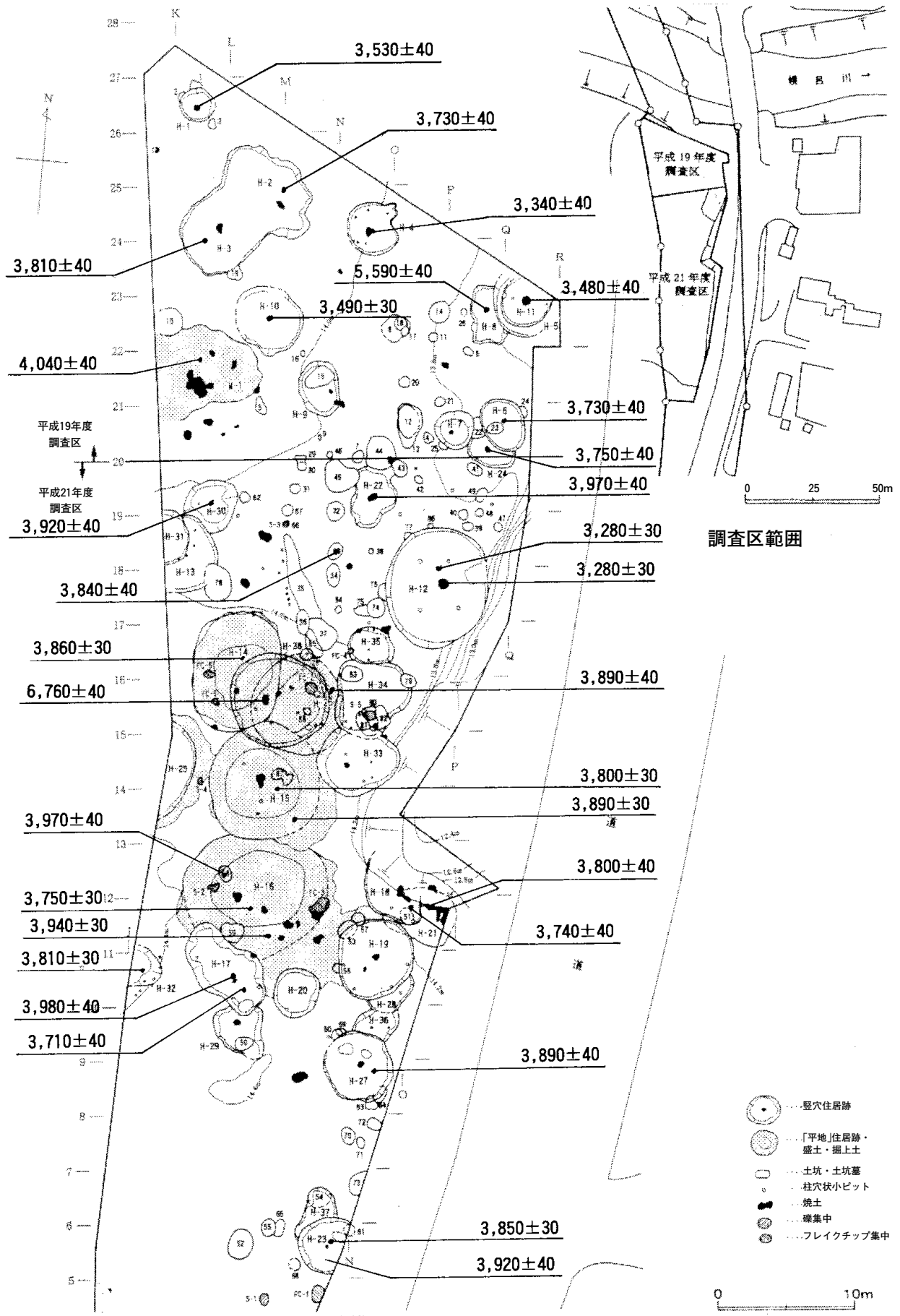
測定結果を下表および遺構位置図（右図）に記載した。縄文早期東釧路Ⅱ～Ⅲ式期の竪穴住居跡の試料では6,760±40yB.P.、縄文時代中期末～後期初頭北筒式期の遺構では4,040±40～3,710±40yB.P.、縄文後期中葉の竪穴住居跡の試料では3,530±40～3,280±30yB.P.という結果が得られた。特に北筒式期のデータは、道東の遺跡において検出された平地住居跡や焼失住居跡のデータと比較検討し、該期の遺跡形成のあり方を考察する上で参考となるものである。

表 放射性炭素年代測定結果

測定番号	試料名	採取場所		試料形態	処理方法	δ ¹³ C(‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり		遺構時期
		遺構	層位				Libby Age(yrBP)	pMC(%)	
IAAA-91740	SMH1-1	M-1	盛土	木炭	AAA	-25.29±0.35	4,040±40	60.49±0.27	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91741	SMH1-2	H-1 HF-1	焼土	木炭	AAA	-27.49±0.62	3,530±40	64.47±0.29	縄文後期中葉
IAAA-91742	SMH1-3	H-2	31層	木炭	AaA	-26.44±0.65	3,730±40	62.89±0.28	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91743	SMH1-4	H-3	覆土	木炭	AAA	-26.77±0.47	3,810±40	62.24±0.27	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91744	SMH1-5	H-4 HF-1	焼土	木炭	AAA	-24.09±0.58	3,340±40	65.99±0.29	縄文後期中葉
IAAA-91745	SMH1-6	H-6 HF-1	焼土	木炭	AaA	-25.88±0.51	3,730±40	62.85±0.27	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91746	SMH1-7	H-8 HF-1	焼土	木炭	AaA	-24.55±0.70	5,590±40	49.86±0.23	縄文早期後葉
IAAA-91747	SMH1-8	H-10 HF-1	焼土	木炭	AAA	-26.35±0.71	3,490±30	64.77±0.27	縄文後期中葉
IAAA-91748	SMH1-9	H-11	床面直上	木炭	AAA	-23.16±0.53	3,480±30	64.88±0.27	縄文後期中葉
IAAA-91749	SMH1-10	H-12	覆土5層	木炭	AAA	-24.50±0.63	3,280±30	66.49±0.27	縄文後期中葉
IAAA-91750	SMH1-11	H-12 HF-1	焼土	木炭	AAA	-25.43±0.65	3,280±30	66.47±0.28	縄文後期中葉
IAAA-91751	SMH1-12	H-14	HM2	木炭	AaA	-23.83±0.52	3,860±30	61.87±0.26	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91752	SMH1-13	H-14	HM2	木炭	AAA	-23.44±0.45	3,860±30	61.82±0.26	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91753	SMH1-14	H-15	床面直上	木炭	AAA	-24.89±0.64	3,800±30	62.31±0.27	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91754	SMH1-15	H-15	HM2	木炭	AAA	-25.75±0.43	3,890±30	61.58±0.25	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91755	SMH1-16	H-16	覆土2層	木炭	AAA	-23.57±0.60	3,750±30	62.74±0.25	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91756	SMH1-17	H-16	HM3	木炭	AaA	-25.86±0.58	3,940±30	61.23±0.26	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91757	SMH1-18	H-17	床面直上	木炭	AAA	-26.18±0.51	3,810±30	62.23±0.26	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91758	SMH1-19	H-17 HF-1	焼土	木炭	AAA	-25.86±0.51	3,710±40	63.01±0.28	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91759	SMH1-20	H-18 HF-1	焼土	木炭	AaA	-26.44±0.61	3,800±40	62.30±0.27	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91760	SMH1-21	H-22 HF-1	焼土	木炭	AAA	-26.01±0.67	3,970±40	60.98±0.26	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91761	SMH1-22	H-23	覆土	木炭	AaA	-26.62±0.53	3,920±40	61.42±0.26	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91762	SMH1-23	H-23 HF-1	焼土	木炭	AAA	-24.55±0.67	3,850±40	61.89±0.26	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91763	SMH1-24	H-24 HF-1	焼土	木炭	AAA	-23.62±0.51	3,750±40	62.72±0.27	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91764	SMH1-25	H-26	HM	木炭	AAA	-25.90±0.63	3,890±40	61.63±0.26	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91765	SMH1-26	H-27	覆土	木炭	AAA	-25.34±0.62	3,890±40	61.61±0.27	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91766	SMH1-27	H-30	覆土	木炭	AaA	-27.03±0.52	3,920±40	61.42±0.27	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91767	SMH1-28	H-32	覆土	木炭	AAA	-26.28±0.68	3,980±40	60.95±0.27	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91768	SMH1-29	H-38 HF-1	焼土	木炭	AAA	-28.24±0.57	6,760±40	43.11±0.23	縄文早期後葉
IAAA-91769	SMH1-30	P-33	覆土	木炭	AAA	-25.71±0.55	3,840±40	62.01±0.28	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91770	SMH1-31	P-58	覆土	木炭	AAA	-25.68±0.65	3,970±40	60.99±0.27	縄文中期末～後期初頭
IAAA-91771	SMH1-32	F-19	焼土	木炭	AAA	-25.00±0.64	3,740±40	62.76±0.28	縄文中期末～後期初頭

分析機関：(株)加速器分析研究所

註：同社報告に加筆編集。δ¹³C補正值まで掲載し、暦年較正は未掲載。



3 現地研修会の記録

9月30日（木）、10月1日（金）に松前町、木古内町を会場にして現地研修会を行った。今回は研修テーマを「中近世遺跡の遺構と遺物—松前町福山城調査と福山城下町遺跡など—」とし、当埋蔵文化財センターが調査中の遺跡と松前町教育委員会が継続調査を行っている福山城にかかわるところを見学した。また、木古内町では、当埋蔵文化財センターが発掘を進めている北海道新幹線建設に関わる発掘現場を見学した。松前町教育委員会の学芸員前田正憲氏、佐藤雄生氏には、講義の講師として、出土資料の展示、解説、さらに見学会の案内者としてなど心細やかな対応をしていただいた。ここに記して感謝の念をあらわしておきます。

なお、今回は北海道立埋蔵文化財センターの指定管理者として行う「平成22年度市町村担当職員出前研修会」と合同しての研修会として開催した。

以下に研修会の概要を記しておく。

9月30日（木）、松前町 福山城下町遺跡：19世紀の町家（発掘の初期）

松前町郷土資料館見学

講義：松前藩の歴史（講師 前田正憲）

見学：町内から出土した陶磁器類（講師 佐藤雄生）

10月1日（金）、松前町 バッコ沢牢屋跡遺跡（ゴロヴニン^{ゆうへい}幽閉地）、日枝社通遺跡、山王権現社跡、

神明石切り場跡（福山城石切り場）、史跡大館跡、光善寺^{おおだて}、史跡福山城^{こうせんじ}

木古内町 木古内遺跡、大平遺跡



福山城下町遺跡発掘調査現場



松前町郷土資料館「松前藩の歴史」講義



見学会の最高地点「地藏堂」(山王権現社)跡

4 協力活動及び研修

(1) 協力活動

ア 発掘現場見学

* 福島町館崎遺跡

- 5月24日 森鷲ノ木ストーンサークル研究会 遺跡見学
- 6月9日 福島町立吉岡小学校 発掘見学及び体験学習
- 6月13日 福島町教育委員会館崎遺跡一般見学会 遺跡見学
- 6月29日 アプタフレナイの会（洞爺湖縄文研究会） 遺跡見学
- 7月5日 「三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究会」 遺跡見学
- 7月5日 青森県教育委員会 文化財視察

* 木古内町木古内遺跡・木古内2遺跡

- 6月11日 木古内町教育委員 文化財視察
- 6月25日 木古内町立木古内小学校 発掘見学及び体験学習
- 6月25日 木古内町文化財調査委員 文化財視察
- 6月29日 アプタフレナイの会（洞爺湖縄文研究会） 遺跡見学
- 7月4日 木古内町教育委員会遺跡見学会 遺跡見学
- 7月9日 恵庭カリンバの会 遺跡見学
- 8月4日 知内町郷土資料館 遺跡見学
- 8月5日 木古内町内小学生 発掘見学及び体験学習
- 8月22日 2010年北海道考古学会遺跡見学会 遺跡見学
- 9月9日 リロナイふれあい学園 遺跡見学
- 9月10日 木古内町立鶴岡小学校 発掘見学及び体験学習
- 9月22日 木古内町立木古内小学校 発掘見学及び体験学習
- 9月25日 市立函館博物館「Jr. 考古学ハカセ養成講座6 遺跡発掘体験」発掘見学及び体験学習
- 9月28日 木古内町立木古内小学校 発掘見学及び体験学習
- 10月1日 木古内町立木古内小学校 発掘見学及び体験学習
- 10月11日 南北海道考古学情報交換会 遺跡見学

* 木古内町大平遺跡

- 5月24日 森鷲ノ木ストーンサークル研究会 遺跡見学
- 6月11日 木古内町教育委員 文化財視察
- 6月24日 木古内町文化財調査委員 文化財視察
- 6月29日 アプタフレナイの会（洞爺湖縄文研究会） 遺跡見学
- 7月5日 「三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究会」 遺跡見学
- 7月5日 青森県教育委員会 文化財視察
- 7月9日 恵庭カリンバの会 遺跡見学
- 7月28日 七飯町歴史館ジュニア探検クラブ 発掘見学及び体験学習
- 8月5日 木古内町内小学生 発掘見学及び体験学習
- 8月22日 2010年北海道考古学会遺跡見学会 遺跡見学
- 9月10日 木古内町立鶴岡小学校 発掘見学及び体験学習

- 9月22日 木古内町立木古内小学校 発掘見学及び体験学習
- 9月28日 木古内町立木古内小学校 発掘見学及び体験学習
- 10月1日 木古内町立木古内小学校 発掘見学及び体験学習
- 10月2日 NPO法人どうなん「学び」サポートセンター 遺跡見学
- 10月7日 噴火湾考古学研究会 遺跡見学
- 10月11日 南北海道考古学情報交換会 遺跡見学

***北斗市押上1遺跡**

- 10月18日 北斗市教育委員会新採用教職員初任者研修 遺跡見学

***富良野市中五区2遺跡・中五区3遺跡**

- 6月24日 富良野市立鳥沼小学校 発掘見学及び体験学習
- 6月29日 富良野市立布部小学校 発掘見学及び体験学習
- 7月16日 富良野市教育委員 文化財視察
- 7月22日 NHK文化センター 新さっぽろ教室「北の遺跡を探る」 遺跡見学
- 8月5日 富良野市生涯学習センター「夏休み子ども学習会縄文遺跡・発掘探検隊」
発掘見学及び体験学習

***下川町北町J遺跡**

- 10月18日 下川町文化財保護審議委員 文化財視察

***根室市トーサムボロ湖周辺竪穴群**

- 8月24日 名古屋大学関江谷1竪穴群調査団 遺跡見学
- 10月9日 北海道開拓記念館学術交流訪問団・国後島古釜布郷土博物館長ほか 遺跡見学
- 10月23日 根室市歴史と自然の資料館史跡見学会「海の歴史と史跡を訪ねて」 遺跡見学

イ 委員会等の会議

***全国埋蔵文化財法人連絡協議会**

- 6月10・11日 平成22年度通常総会（愛知県犬山市 坂本（均）・西田・葛西）
- 10月14・15日 北海道・東北地区会議ならびに北海道・東北地区コンピューター等研究委員会
（岩手県盛岡市 坂本（均）・倉橋）
- 12月2・3日 役員会（東京都 坂本（均）・中田）

***北海道教育関係公益法人協会**

- 3月12日 平成21年度通常総会（札幌市 松本）

***網走市史跡最寄貝塚保存整備委員会**

- 2月4日 平成21年度第2回委員会（網走市 畑）

***北広島市文化財保護審議会**

- 6月29日 平成22年度第1回審議会（北広島市 藤井）
- 8月3日 平成22年度第2回審議会（北広島市 藤井）

***恵庭市史跡カリンバ遺跡整備計画策定委員会**

- 3月25日 平成21年度第3回委員会（恵庭市 畑）
- 7月22日 平成22年度第4回委員会（恵庭市 畑）

***標津町史跡標津遺跡群・天然記念物標津湿原整備委員会**

- 2月18日 平成21年度第2回委員会（標津町 畑）

- 9月22日 平成22年度第1回委員会（標津町 畑）
- *洞爺湖町国指定史跡入江・高砂貝塚整備検討委員会
 - 10月8日 平成22年度委員会（洞爺湖町 畑）
- *財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構助成事業審査委員会
 - 5月27日 平成22年度第1回委員会（札幌市 畑）
 - 6月8日 平成22年度第2回委員会（札幌市 畑）
 - 9月29日 平成22年度第3回委員会（札幌市 畑）
- *北海道アイヌ協会
 - 8月6日 北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパ（札幌市 西田）
 - 9月30日 札幌医科大学収蔵アイヌ人骨・遺跡出土人骨イチャルパ（札幌市 畑）
- *NPO法人三内丸山縄文発信の会
 - 縄文の漆複製プロジェクト
 - 9月6日 第2回検討委員会（八幡平市 田口）
 - 11月15日 第3回検討委員会（青森市 田口）

ウ 調査指導および講演会等の講師

- *北海道大学
 - 3月2日 アイヌ文化に関する研究の推進・連携等体制構築の検討事業に係るヒアリング（札幌市 西田）
 - 6月21～23日 遺構の移築・造形保存の指導（K39遺跡）（札幌市 田口）
- *千歳市教育委員会
 - 1月13～15日 調査報告書作成遺物写真撮影指導（千歳市 菊池）
- *函館市教育委員会
 - 2月18日 見る・感じる！・北の縄文世界展開催に伴う遺物等の設置（函館市 吉田）
- *江別市教育委員会
 - 7月3日 江別市郷土資料館開館20周年記念／縄文文化講演会「かえってきた土偶たち」（江別市 畑）
- *福島町教育委員会
 - 9月17日 館崎遺跡調査報告講演会（福島町 遠藤）
- *木古内町教育委員会
 - 10月7日 木古内公民館講座木古内ゼミナール（木古内町 村田）
- *森町教育委員会
 - 11月6日 特別展「縄文時代の暮らし」講演会（森町 遠藤）
- *長万部町
 - 11月17日 平成22年度いきいき大学（第5回学習会）ならびに学校支援ボランティア養成研修会「長万部魅力再発見」（長万部町 畑）
- *札幌国際大学
 - 9月16日～平成23年3月31日 札幌国際大学非常勤講師「文化財の保存と活用」（札幌市 畑）
- *南北海道考古学情報交換会
 - 12月4・5日 平成22年度発掘調査報告会（上ノ国町 愛場・阿部・酒井）

*北海道考古学会

12月25日 平成22年度遺跡調査報告会（札幌市 鈴木（信）・福井・広田・酒井）

*北の縄文文化を発信する会

11月6日 連続講座・縄文人はどこから来たか？第3回（札幌市 坂本（尚））

(2) 研修

ア 外部研修

*文化庁

1月27～29日 平成21年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会（千葉県千葉市 鈴木（信））

9月1～3日 平成22年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会（香川県高松市 菅野・大良）

*国立文化財機構奈良文化財研究所

2月16～24日 平成21年度埋蔵文化財担当者専門研修「地質環境調査課程」
（奈良県奈良市 大泰司）

7月2・3日 第22回埋蔵文化財写真技術研究会（奈良県奈良市 菊池）

11月16～19日 平成22年度埋蔵文化財担当者専門研修「遺跡地図情報課程」
（奈良県奈良市 直江）

*全国埋蔵文化財法人連絡協議会

11月11・12日 平成22年度研修会（徳島県板野市 熊谷・小笠原・前田）

12月8～13日 海外研修（中国 中田・柳瀬）

*江別市消防署

1月19日 市民救護士講習（田口・影浦）

2月19日 市民救護士講習（越田（雅）・柳瀬）

3月19日 市民救護士講習（佐藤（剛））

4月19日 市民救護士講習（中田）

*日本火山学会

10月9～11日 2010年秋季大会（京都府京都市 花岡）

イ 内部研修

*平成22年度現地研修会

9月30日・10月1日（松前町 9名）

5 平成22年度刊行予定報告書

第273集『白滝遺跡群Ⅺ 遠軽町ホロカ沢Ⅰ遺跡』

旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査業務報告書

第274集『釧路町 天寧1遺跡(2)』

町道床丹5号線道路改良事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第275集『北見市 北上4遺跡』

北海道横断自動車道網走線訓子府北見間改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第276集『苫小牧市 美沢16遺跡(2)』

新千歳空港ILS用地造成工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第277集『森町 森川6遺跡』

森インター線交付金工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第278集『木古内町 木古内2遺跡』

北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第279集『下川町 北町J遺跡』

天塩川サンルダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第280集『木古内町 大平遺跡・大平4遺跡』

北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

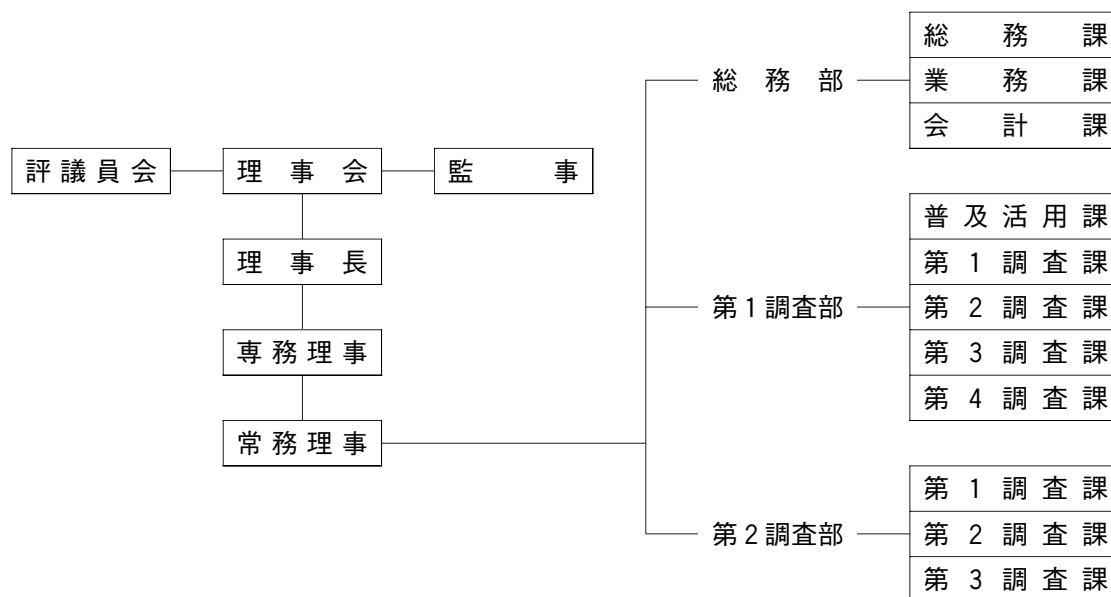
6 組織・機構

役員（平成22年6月1日現在）

理事長	坂本均	常勤
専務理事	松本昭一	常勤
常務理事	畑宏明	常勤
理事	菊池俊彦	非常勤
理事	北川芳男	非常勤
理事	田端宏	非常勤
理事	藤島省三	非常勤
理事	三野紀雄	非常勤
理事	森重楯一	非常勤
理事	山本伸弘	非常勤
理事	米田優子	非常勤
監事	佐藤一夫	非常勤
監事	村山邦彦	非常勤

評議員（平成22年6月16日現在）

評議員	氏家等	非常勤
評議員	川上淳	非常勤
評議員	木村方一	非常勤
評議員	昌子守彦	非常勤
評議員	白崎三千年	非常勤
評議員	谷直人	非常勤
評議員	鶴丸俊明	非常勤
評議員	戸塚隆	非常勤
評議員	西幸隆	非常勤
評議員	松田光院	非常勤
評議員	横山健彦	非常勤



7 職 員 (平成22年4月1日現在)

総務部

総務部長	中田 仁	業務課長	菅野 聡
総務課長	葛西 宏昭	主査	小笠原 学
主査	小杉 充	主任	今本 宏信
参与	北浦 満	参与	大良 準一
参与	前田 克己	参与	増田 幸一
		参与	徳田 京一
		會計課長	徳田 千秋
		主任	中村 貴志

第1調査部

第1調査部長	千葉 英一
普及活用課長	鎌田 望
主査	藤本 昌子
主査	倉橋 直孝
主査	藤井 浩
第1調査課長	田口 尚
主査	花岡 正光
主任	吉田 裕史
第2調査課長	三浦 正人
主査	越田 雅司
主任	末光 正卓
主任	広田 良成
第3調査課長	鈴木 信
主査	立川 トマス
主査	菊池 慈人
主査	芝田 直人
主任	山中 文雄
主任	酒井 秀治
主任	佐藤 和雄
第4調査課長	熊谷 仁志
主査	谷島 由貴
主査	笠原 興
主査	鈴木 宏行
主任	坂本 尚史
主任	直江 康雄

第2調査部

第2調査部長	西田 茂
第1調査課長	遠藤 香澄
主査	中山 昭大
主査	影浦 大覚
主任	福井 淳一
主任	柳瀬 由佳
第2調査課長	佐川 俊一
主査	皆川 洋一
主査	袖岡 淳子
主任	佐藤 剛
主任	富永 勝也
主任	立田 理
第3調査課長	村田 大
主査	土肥 研晶
主査	新家 水奈
主査	愛場 和人
主任	阿部 明義
主任	大泰 司統

調 査 年 報 23

平成22年度

平成23年 3月 9日発行

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL 011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL <http://www.domaibun.or.jp>
E-mail mail@domaibun.or.jp

印 刷 社会福祉法人 北海道リハビリー
〒061-1195 北広島市西の里507番地1
TEL 011-375-2116(代)・FAX 011-375-2115
